

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	本山 大輔

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、本学の建学の基礎となるキリスト教について、特に旧約聖書の創世記について理解を深めることを目的として行った。ほぼ、毎回の授業で、その授業の内容の聖書の箇所をベアリーディングすることにより、聖書から創世記の物語を知り、さらなるイメージを深めるために保管的に動画を用いた。また、聖書が示す価値観、人間観、現代での課題、聖書を通して自己理解を深めるために多くのワークショップを行い、聖書が現代において、関係ないものではなく、私たちの生活の中に多くの影響を与えていることを知る機会を設けた。ワークショップはランダムของกลุ่มで行われ、生徒同士のコミュニケーションを深める機会となったと考える。講義の終了時に、クラスポートフォリオを記入させ、講義から学んだことをまとめさせることにより、より理解を深めるように試みた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均値は87であり、再試験の対象はいなかった。多くの学生が講義の内容を十分に理解しており、積極的に本科目を学んだと言える。授業評価アンケートにおいて知識理解は4.4ポイント、事象については4.2ポイントと自己達成度4.0ポイントであり、本講義から知識を得たことが示されている。一方で、専門分野との関係性においては3.6ポイント前後の評価が多く、受講生たちは栄養学とキリスト教の関わりを見いだせなかったと理解できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、本学の建学であるキリスト教について学ぶ必須科目である。必須科目であるために、キリスト教に関心を持ってこの授業を受講しようとした受講生は全体の5%に過ぎない。故に、キリスト教について学ぶ意味の意識の醸成については工夫をする必要がある。意識の醸成については本科目だけでなく、チャペルの時、教会訪問なので実際に体験する出来事の中でも高められていく必要がある。受講生の多くが一定以上の成績を収めており、授業の内容としては適切であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 自由記述の中に、初めて触れるキリスト教であったが、多くの学びがあった、興味が持てたとの回答が多数あった。グループワークでコミュニケーションを高められたとの意見もあり、アクティブラーニングの効果が一定あると考えることができる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価として、最も高い評価されたのは(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の項目であり、4.7ポイントであった。グループワークやクラスポートフォリオによるまとめの時間を多く持ったことにより、このような評価となったと考える。他の授業の質評価は、(1)が4.4、(2)が4.6、(3)が4.5、(5)が4.1と4ポイントを上回っており、受講生にとっては本講義について積極的な評価をしている理解できる。一方で、授業の準備においては、半数以上が予習の時間を設けていなかった。授業内で、次回の授業のための課題を出すことはなかったのが必然と言えるが、受講生が自らこの講義について学ぼうとする促しが不足していたとも考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本学の精神を学ぶ必須科目の位置づけにおいては、キリスト教、旧約聖書、創世記について基礎的な知識を得ることについては概ね達成できたと考える。授業内の受講生同士のコミュニケーションも多く行い、どの分野においてでも必須となるコミュニケーションスキルを高めることもできたように思える。一方で、教師と受講生のコミュニケーションにおいては不足しており、教師が一方的に受講生に「教える」という授業形態から脱しきれていない。相互に言葉が交わし合える授業とするためにはより工夫が必要である。 また、教師自身が受講生の「目標・職業選択」ということを十二分に理解していないために、専門分野とキリスト教をどのように結びつけていくかについては、相当の授業内容の改善が必要とされていると考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名称の通り、西南女学院とキリスト教との関わりに重点を置き、オムニバスで講義を行った。西南女学院の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選し、キリスト教の日本への伝来から西南女学院を創立・発展させた宣教師やクリスチャンの働きについてまで8回にわたり紐解いた。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院の歴史的研究をされており、アメリカに現存する貴重な資料をもとに、草創期の宣教師の働きについて3回にわたる講義を担当された。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考ええる。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4－1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.0を超えていた。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大人数の対面授業ではあるが、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①講義、課題などのスケジュール自己管理と学修の振り返りのために、ポートフォリオを毎回持参させシラバスで確認するよう指導した。 ②ミニレポート・レポート作成にあたり以下の点について改善を行った。 ・学生が苦手とする「問いの発見」については、問いだてを理解しやすいようにシートの改善を行った。 ・文献検索法を繰り返し説明し実践させることで、情報の入手法の習熟度を上げる取り組みをした。 ・ミニレポートの課題文は、難易度を考慮した。また、課題文をモデルに問いだての仕方や文献の読み方を講義で説明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は80.3点で、標準的レベル(70点以上)に達した学生は97%、理想的レベル(80点以上)に達した学生は57%であった。DP観点別成績は、知識理解の得点率が79.1%、意欲関心の得点率は82.1%、態度の得点率は83.0%であった。 ②学生の到達度自己評価の平均値は4.0、"知識を確認・修正・新たに得ることができた"4.2、"専門分野の課題を検討する力を得ることができた"3.9、"専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた"3.8、コミュニケーション力や表現力を高めることができた"4.1であった。 ③授業の質評価は、"レポートなどの評価基準の明確さ"4.2、"学習の範囲や課題の明確さ"4.2、"話し合う、発表するなどの機会があった"4.2、"学生の質問を受け付け答える機会があった"4.2だった。昨年度とほぼ同程度の結果であった。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が41%・24.3%であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は24.3%で、「文献探し、文献の書き方」などに主体的に取り組んでいた。一方で、「時間がなかった、課題で精一杯だった、他の課題に追われていた」などの理由で、課題以外の学習に取り組んでいない学生がみられた。 ⑤図書館利用率84.6%、学術データベース利用率92.3%、インターネットなどの利用率93.5%と多くの学生が文献収集に積極的に取り組んでいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は初年次教育として基本的な学修スキルズを学び、それを専門基礎科目・専門科目で活用できることを目的としている。講義内容は、看護学科の学生を意識したもので、1年次で身につけなければならない内容を含んでおり科目の位置づけとして妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①レポート作成については、文献収集法の繰り返しの説明に学習効果が認められたことから、「問いたて」「レポート構成」「文献を使った論述」についても全体講義とゼミ教員による講義を繰り返すことで学習効果をあげる工夫が必要である。 ②Workの効率をあげ、時間を有効に活用するためにも初年次ではパソコンの必携を薦めていく。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の目標達成状況と授業評価から、1年で学ぶ学修の基本スキルズを修得するという目標は達成できたと思われる。担当教員5名による講義前後の講義内容・進度などの打ち合わせもスムーズに行われており、次年度もこの取り組みを継続し実施する。一方、レポート作成については、シートの改善などを行ったが、「問いの発見」「文献を使った論述法」に苦渋した学生がみられ課題が残った。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康・体力に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。また、健康・体力に関する最新のエビデンスを紹介した。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.5（±11.7）点であった。成績分布別にみると、90点以上が24.7%、89～80点が39.8%、79～70点が23.7%、69～60点が10.8%、60点未満が1%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち64.5%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が42.0%、「わりにそうだと思う」が33.3%、「まあまあそうだと思う」が22.2%と、ほとんど（97.5%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という質問で、「かなりそうだと思う」が45.7%、「わりにそうだと思う」が34.6%、「まあまあそうだと思う」が18.5%と、ほとんどすべて（98.8%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。また、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が40.7%、「わりにそうだと思う」が37.0%、「まあまあそうだと思う」が19.8%と、ほとんど（97.5%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.1～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考えるが、授業時間内において学生がもう少し主体的に学ぶ時間を設けたいと考えている。 学習量の評価では、自発的学習（「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」の質問）について、「していない」が74.1%、「取り組んだ」が25.9%と、多くの学生が授業課題以外の学習に取り組んでいなかった。授業課題以外の学習で、学びを深めることの必要性や楽しさを伝えることによって、学生の学びの意欲を高めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86.9（±7.0）点であった。成績分布別にみると、90点以上が40.6％、89～80点が47.8％、79～70点が8.7％、69～60点が2.9％であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、非常に多く（88.4％）の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が39.5％、「わりにそうだと思う」が36.8％、「まあまあそうだと思う」が23.7％とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が21.1～39.5％、「わりにそうだと思う」が42.1～50％、「まあまあそうだと思う」が18.4～24.7％と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.2）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が34.2％、「わりにそうだと思う」が47.4％、「まあまあそうだと思う」が18.4％と、すべて学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようにことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.9～4.2であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
共生社会とジェンダー	3	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多いことから、アクティブラーニングを実施するにあたって、漫画やアニメ、ネット上の映像、ニュースや映画の予告、CMなどを新しい動画を教材として準備した。学生にもその旨シラバスに記載し、身近なテーマから授業に関心を持てるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、最終授業の中でジェンダーを原因とする格差が解消した未来の共生社会を新聞記事として表現し、これに対し「ジェンダーの視点」を理解し、当事者性のある課題をどこまで社会的解決に結びつけるかを採点の基準とした。新聞作成はグループの作業となったので、個別の評価は各回の授業の感想において、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることのできるかを加えた。ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていたが、これまでの思い込みから脱却の難しい学生も見受けられた。新聞作成においては、グループで個性が際立ち、文章力、情報収集力など特徴が異なるため、ジェンダーをめぐる課題を社会構造と結び付けられているか、意欲関心が表現されているかを評価した。基本的に、テーマに関心の高い学生が集まっており、基準には到達していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	新聞記事として表現された内容から、ジェンダーをめぐる現状に社会的解決が必要であること、それ実現するために求められる施策などへの理解は達成できたといえる。また、思考判断や意欲関心についても達成されており、おおむね内容的妥当性は認められる。ただし、関心の高いテーマ（例えばLGBTなど）へは考察が深いが、より多様な人々との共生をジェンダーの視点から総合的に捉える力が不十分な学生も見受けられた。ただ、グループ討議などで他者の意見を聞くことで、おおむね新たな気づきにつながっていたと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業を対面で実施し、グループ討議がより活発に行われた。自分自身の意見を述べることや他者の意見を聴くことに、楽しさを見出していた。特に、学科を超えてグループを作ったので、通常では話せない学生同士で思わず深い話ができただった場合もあった。一方的な講義より、理解が深まったものと思われる。毎回、発表する担当者を決めて、またグループで発表内容を検討するなどして、主体的な学びの場となった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	ジェンダーや共生社会という概念については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。身近な問題を政治や経済と関連する理解へと結びつけることは、継続的な課題である。最終回で新聞作成をした。昨年度は授業評価アンケートで作成時間が足りないという意見があったが、今年度は、他のグループの作品を見る時間も確保した。他のグループに対しても感想を提出させ、より分析的に振り返りができたようだ。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 受講動機として、「必修科目である」が96.7%となっており、「関心のある内容である」は13.3%となっており、初学者である受講生にはシラバスのみでは、授業の意図する部分については理解されにくいことが考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、88.6点、再試対象者は0名であった。全員が理想的レベルに達した。 到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.4、「事象（支援、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が4.2であり、10項目中9項目が4.0以上であり、本科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、保健福祉学部を学ぶにあたっての必修の導入科目である。 到達度自己評価および最終的な成績評価からも科目の目的は、果たしていると判断でき、内容的にも妥当であると考ええる。 ②DP行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解、意欲関心及び態度に位置付けられた科目である。知識理解は94.1%、関心意欲は82.5%、態度は83.5%であり、概ね内容的には妥当であると考ええる。自由記述においては、他科の先生方の講義がこれから看護を学ぶ上で参考になった等の意見が寄せられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が4.5、「説明は理解しやすいものであった」は、4.1であった。7名の教員によるオムニバス形式の講義により保健福祉学への導入科目としての役割を概ね果たしていると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 学生が4年間の学びのスタートして、保健福祉学への理解と関心を高める科目としての目的を果たせるよう、担当する教員とさらなる充実を目指していきたいと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに学科特性に合わせて、ヒトの生体に焦点をあてた講義内容にした。常に生体の正常なものと異常（疾患）を組み合わせて、事例を展開しながら形態機能学や疾病学に関連づけ講義を行った。 ②講義内容を整理するための「ポイント整理の提示」は、主体的な学習を促す意味で実施した。今年度は、Classroomにも掲載し、学生がいつでも取り組めるようにした。また、「ポイントの整理」と「小テスト」を組み合わせることで学生の学習姿勢を把握した。 ③理解が難しい講義内容については、学生同士で話し合いの場を設ける、理解できない点は質問を受けた。質問とそれに対する応答・講義の学び直しは、受講生全員と共有した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は81点（±15.5）で、65%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は50%だった。小テストの平均点は14/20点（得点率70%）、講義後の提出課題の平均点は9.2/10点（得点率92%）だった。昨年より理想的レベルに達した学生が多く見られた。 ②学生の到達度自己評価では、「自分なりに目標を達成した4.0」、「新しい知識など得ることができた4.2」、「専門分野の課題を検討する力がついた、的確に判断する力がついた4.2」であった。また「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、4.1だった。 ③授業の質評価では、「テストの評価基準、課題の明確さ、説明の理解しやすさはともに4.2」、「質問を受ける機会を設けていた4.4」であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が35%・44%、課題以外の学習に取り組んだ学生が81%いた。自由記述では「小テストの勉強をした」、「提示されたポイントの整理をした」、「まとめノートを作った」などの意見が多くみられた。一方で、「時間がなかった」「生物が苦手」などの理由で、主体的学習が滞り復習をしていない学生が9%いた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 大学で学ぶ生物学として、専門科目を意識した科目内容及び1年生を対象にした一般教養科目としてのカリキュラム上の位置付けは妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 上記に記載した学生の自己評価や成績の状況から、学生が学ぶ内容としては妥当であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①上記に記載した総合評価、学生の自己評価より、今まで実施してきた授業改善は継続し行なっていく。今年度の特徴として、平均点が81点で理想的レベルに達した学生が50%いる。一方、標準レベルに達した学生は65%であった。学生間で話し合いの場を設けるなど、学生同士で習熟度をあげる取り組みをさらに強化していく。 ②また、質問や相談をうけるなかで、高校での「生物の基礎」の学習状況にかなり差があることが明らかになった。この点は憂慮すべきことで、大学で学ぶ知識を上乘せするためには、高校までの基礎知識をどう習熟させるかが課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一般教養科目としての位置づけと学科特性を踏まえた講義内容は、達成度状況・授業評価からみて講義目標はやや達成できたと考える。積極的に主体的学習に取り組み講義目標を達成した学生がいる。しかし、一方、大学での学びを習熟させるための高校までの基礎知識が不十分な学生がいる。どのように対処するか課題が残った。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまでの年度と同様に、1年生、全学対象、かつ苦手な学生の多い数学ということであり、また、受講の動機からも、基本的には興味関心よりは単位取得を目的として受講している科目であるため、内容理解へのモチベーションを上げる必要から、テーマを身近なものにすることを特に意識した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業アンケートの結果からも到達度自己評価において平均的に3～4程度の結果になっており、ある程度達成できたとは考えている。ただ、事前に成績計算方法（毎回の課題の重視）を提示していたにもかかわらず、毎回の課題の提出率が想定よりも低く、結果的に再試験に該当する学生が全体の1/3程度出てしまった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は特定の学科のカリキュラムに関連すると言うよりは、全学共通の教養科目であるため位置づけは難しいが、学習到達度について概ね達成されたと評価できるため、この点についても大きな問題はないと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎週の課題を明示していることもあってか、学習量についてはある程度確保出来ていると考えている。ただ、各自の学習を行わない理由として、何をしたいかわからないといった意見が出ており、授業並びに課題以外の部分で、どのように学習、あるいは学んだ知識を活用していくかについて、情報提供を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業の内容自体はある程度まとまってきたように考えているが、成績評価の部分で、成績分布が想定より低くなってしまった点が反省点である。成績評価の方法については、初回講義の段階で、個々の課題について、それぞれ何点ずつ配点するかも含めて説明していたのだが、各回の課題を提出しないことで、成績評価にどの程度悪影響となるかをもう少し具体的に、わかりやすく提示するべきだったと考えている。来年度は、たとえば1回課題未提出者の成績分布のような形で示すことで、課題提出を促していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現代社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度に引き続き、全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は32名、回答率は56.1%であった。受講動機を見ると、「単位数を確保する」が68.8%、「関心のある内容である」が31.3%、「先輩に勧められた」18.8%であった。保健健福祉学部3学科同時開講の科目のため、看護に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、授業中の確認テスト・コメントおよびレポートで行った。素点の平均点は76.53点、理想的レベル（90点以上）に達した者は6名、不可と評価した者は1名であった。平均点は昨年度(85.10点)より大幅に低下している。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.2、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はともに4.1であり、いずれも昨年度より0.5下回る数値である。また、DPには加えていないが、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値はいずれも4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「職業選択の参考になった」の平均値はいずれも3.9であった。これらについては昨年度の数値とほぼ同様である。これは「法学」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによるとと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、「単位目当て」の学生のみならず、内容に関心のある学生が多く履修している。この科目は、将来、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、豊かな人間性と社会性を得るためには重要であり、学生も一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.3、「期間内に行う学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値はいずれも4.2であり、いずれも昨年度の数値を大きく下回っている。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は27名、全く復習をしなかった学生は24名で、予習・復習をしていない学生がほとんどであった。授業以外に学習していない理由として「看護の勉強を優先したかったから」、「時間がなかった」、「する必要がなかった」という意見が見られた。他方、授業の課題以外に具体的に取組んだ学習については、「興味のある判例を調べた」、「ノートにまとめた」、「ニュースを見た」との意見が見られた。学生からは、「確認テストですぐ復習できるところがとても良いと思います」との感想が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が多くの学生に定着することを目指したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の66.7%を除いて、②「資格取得に必要である」は16.7%で、③「関心のある内容である」は100.0%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数が6名で、語学の初級としてはやや少ないと思います。しかし、学生一人一人に対して指導ができることがとても良いと思っています。 3. 「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は3.8の数値であることから、学生の意見や表現を十分に到達したことが伺います。今後の授業において、学生間の会話できる場面や機会を増やしていくことにもっと工夫して行きたいと思っています。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	1. A評価は5名、B評価は1名であり、最終的な成績の平均値は「84.5点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル（定期試験及び平常点の総合として80点以上）に達していた。 2. （DP-1）の知識理解、（DP-5）の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週3回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。4. 自発的学習については、中国語の動画アプリやネットで関心のある内容を自ら調べて学習することが評価するべきです。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、①「自分なりの目標を達成した」は平均点3.3点、②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.0点、③「専門分野について、深めたい意欲を持つことができる」は3.3点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、值的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。 3. 「図書館やインターネット等の利用」は、インターネットの授業関連の学習があまり利用したことが見られません。今後は授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」70.8%、「単位数を確保する」43.8%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。 ②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。その項目から受講動機、韓国語学習経験、知りたい事を把握した。③各課に文字読み取りテスト、単語テスト、挨拶テスト、自己紹介テスト、会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④昨年度に示した改選計画では、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に「どのようなことをしたらいいか分からなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90.4点であり、再試験対象は2名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、44名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては89.5%、機能表現は84.5%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	宮浦 崇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	例年通りのPC教室での対面実施形式で、本年度は受講生が60名ほどになり、PC操作スキルの違いによる進捗状況の個別の把握や教員によるその場でのフォローが困難であった。初回授業時の授業内アンケートから受講者のPCスキル・レディネスについて、これまでの学習経験から大きく差があり（PC習熟が必要な受講生がおよそ30%程度存在）、本年度も前半3回は、大学が示すICT活用のためのルール・規範などの情報に繰り返し触れながら、PC操作やメール送受信、キーボード入力などの基本的PC操作スキルの向上に焦点をあてた授業進行をおこなった。 授業の進捗や説明内容・方法についてはPCを活用した情報活用入門レベルの学生に前半は焦点化し、個人演習での「つまづき」を最小化するよう心がけた。高スキルの学生については、「フォロー役」を担えるような授業展開を試行したが、全体的に内容が平易であり、教科書の内容も高校までで既習事項が含まれることへの不満も届いた。より高度な情報関連科目の履修を推奨するとともに、本科目の存在目的および「達成目標」（合格水準）を示し、多くの受講生が目標を達成することができるように授業を展開することを説明した。 ※そのようなハイスキルな受講生に対しては、本年度もより高度な追加演習や他の履修者に対するサポート役をお願いするなどして、評価要素とすることで対応した。（一部の意欲的な学生が応答した。）
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	提出された各回の課題、小テスト、説明課題、プレゼンテーション資料の作成と発表、最終レポートの作成課題の到達度（評価点）からは、シラバスに示した3つの到達目標（行動目標）は受講生の多くが達成されたものと見なすことができる。また授業アンケートの自己評価の結果に照らしても同様の結果であると判断する。なお課題未提出により最終的に目標を達成したかどうかの判定が困難であったため、累積評点が不足しD評価となった学生が若干名いた。 【参考1】シラバスに示した到達目標 目標1. メディアリテラシーに関する理論や重要な事柄について説明することができるようになる。 目標2. メディアから受け取った情報の妥当性を判断するための方策について説明することができるようになる。 目標3. 文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用した情報発信ができるようになる。 【参考2】最終成績の得点分布割合（履修者65名） S：45%、A：42%、BおよびC：9%、D：4% 【参考3】最終成績を構成する各課題・提出物の評価ウェイト					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	"メディアリテラシー"（情報を伝える媒体を使いこなす基礎的な能力・知識・態度）の習得を通じて、大学が掲げる「豊かな人間性と社会を捉える総合的視点と知識を身につけている」ことに寄与している。また、PC活用スキルを獲得しより高度化することで大学の掲げる「専攻する学問分野における基礎的知識を修得している」ことに寄与している。 本講義で重点的に指導をおこなったキーボード入力（タイピング）および情報発信スキル向上のための課題（小テスト）を通した熟達について、授業アンケートで取り組みを示した学生が一定数見られたことは開講目的や到達目標に照らして良い傾向と判断した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	高等学校までの履修課程の影響で、本授業で扱うとくに「情報機器活用」に関連した技能部分での予復習を必要としない学生層が近年増加傾向にあり、今後の授業内容や到達目標の設定について検討していかなければならない。3. 授業準備の項でも示した通り、受講生の当初のスキルレベル（レディネス）の相違が大きく影響する演習授業形式を採るため、それらに対応した教材開発をすすめたい。 例年、一定数存在する大学入学までの段階で極端にPC利用経験が浅い受講生については、必要に応じて大学内の関連サポート窓口や各種リソースに適切につなげることができるよう準備をおこないたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終課題の完成度や履修者アンケートなどから、本講義で目指した到達目標（行動目標）は概ね達成できたものと考えている。上記で示した課題などに留意しながら次年度の授業デザインを検討したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、大学生としてのICTの基礎スキル修得を主目的とした授業であるが、ソフトウェアの基本的な使い方は高校時代に学んでいる学生が多く、また日々進化し続けるICT社会において、使い方そのものはあまり意味をなさない。むしろ、PCを用いて何を表現できるかが4年間の大学生活を送っていく上で、あるいは社会人基礎力として重要である。従って、授業では文書作成やデータ活用において、学生生活で必要となるPCによるレポート作成技法やデータ処理スキル、インターネットの活用手法、あるいはプレゼンスキルの向上を目標としながら、その中で必要なICTスキルを修得させることに重点を置いた。 受講動機では、「単位数を確保するため」が50%を超えており、第1回講義において本科目の位置づけとICTの重要性を看護業務等と絡めてしっかりと説明したが、「関心のある内容である」が26.1%と伸びていない状況である。看護学科の学生に現代社会におけるICTの重要性を理解させるうえで、次年度に向けてさらなる改善が求められる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は78.3点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「秀・優」の学生が60%、「良」も加えると85%に上っており、授業目標としているレベルを達成できたといえる。「可」の15%の学生は、授業内容は十分理解できてはいるものの、復習不足等からその活用能力が身についておらず、課題の内容において満足のいく結果を残せていない状況である。個々の状況把握の方法において、今後の検討が必要である。 学生の到達度自己評価でみると、全体的傾向として（2）の項目が最も高くなっており、学生自身も授業目的であるICT活用術の修得を実感できていると言えるのではないだろうか。また、（7）の項目も全体の中で高い数値を示している。毎回の授業内容、練習課題等において看護に関連する話題を提供した点が数値の伸びにつながっていると考えられる。ただし、1年生前期の科目であるため、本授業の内容が4年間の大学生活や卒業後の業務の中でどのような関連付けられ、重要な要素となるかという点については、十分な理解が得られておらず、他の項目の数値の伸び悩みにつながっていると考えられる。昨年度も同様の傾向を示しており、授業内で改善がはかれるよう努めているが、次年度に向けてさらなる改善の余地がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する1年生の前期に実施される選択科目である。受講生が入学直後であり、まだ完全にDP、CP、カリキュラムマップを理解し切れていない中で、学生生活だけでなく社会人基礎力としても必須のICTスキルの重要性を理解させるよう工夫している。学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 授業評価から「コミュニケーションや表現」および「職業選択の参考」に関する達成度が他の項目に比べて低かったが、パソコンの基礎スキル向上を目的とする授業内容であることが影響していると考えられる。次年度に向けて何らかの改善策を検討したい。また、思考判断に関しては、与えられたことを指示された手順に沿って行うことは得意であるが、自分で創造夫していく課題になると対応できない点が見受けられる。復習の時間不足が原因と考えられるが、次年度に向けて改善策が必要である。しかし、成績の面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」では、(1)から(3)に関して「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」を合わせて8割を超えている点は、こちらの授業意図が学生にも浸透していたのではないと思われる。しかし、(4)についてはPCを中心とした実習授業であると言う事もあるが、授業内課題については周囲と相談しながら行わせるなど、PCとだけに向き合う事のないようにしたが「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」あわせて6割強であり、検討の余地を残した。 「学習量の評価」では、(1)(2)については「0回」が5割弱を占めており、「1回」も含めると8割を超えている。授業では自己学習の取り組み方について指導は行っていたが、対応を検討する必要がある。 また、授業全体を通して与えられたテーマ、課題に対して、PCをどのように活用しながらその問題解決に取り組んでいくかという点に主眼を置いた授業展開を心掛けていた。これについては、昨年度に引き続きよい結果が得られている。今後は、更なる数値の向上を目指し、検討を重ねていきたい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活の中で必要とされるICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。また、与えられたテーマや課題に対して、その問題解決のためにPCをどのように活用すべきかという点ではよい評価を得ることができた。しかしながら、看護学科という卒業後の進路が明確な学生に対して、どのように専門性と結び付けながら関心を持たせるかという点では、毎年同様の評価傾向にあり、様々な工夫を凝らしているが結果に結びついていないので、今年度もさらなる改良の余地を残した。 以上から、教材内容の見直しや、課題提示の工夫、グループ活動への取り組みなど、次回に向けたさらなる改善を検討していきたいと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	古川 洋章

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、科目名の通り情報処理に関する科目であるため、事前に必要な前提知識およびスキルセットについてシラバスで周知をしている。またアクティブラーニングを実施するため、授業毎に提出された課題を評価した上でメンバ分けを実施し、各班のスキルレベルが一定となるように調整を実施している。 本科目の受講動機をみると、「資格習得に必要である」の項目が66.7%、「関心がある内容である」の項目は23.8%と、昨年度（「資格習得に必要である」：41.9%、「関心がある内容である」：25.6%）と比較し、資格取得のために受講している学生の割合が高いことが明らかとなった。一方で、「単位数を確保する」の項目が19.0%と昨年度の55.8%と大きく減少している。これらより、シラバスやオリエンテーションにおいて本授業が初心者向けの講義ではないことを強調したため、受講動機のミスマッチが減少したことを示している。 今年度の課題として、グループ活動において班のメンバが極端に集まらないグループが生じてしまったため、1グループあたりのメンバ数を考慮するなど、調整を図りたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均は74（±8.7）点であり、再試験対象は0名であった。全員が標準的レベルに達しており、かつ理想的レベル（成績が80点以上を想定）に到達している受講者が全体の約26%(7名)と、昨年度と比較し大幅に改善している。 目標別にみると、知識理解の得点率に関しては66.2（±8.0）%、技能表現の得点率に関しては59.3（±8.5）%の到達度であり、昨年度と比較し知識理解においては改善したものの技能表現では低い結果となった。技能表現では、課題制作やプレゼンテーションにおいて特に低い得点率となっているため、自身の考えを表現する力をどのように獲得していくかを課題とて、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「養教一種免」に関連する科目であり、「情報機器の操作」における科目として資格取得の上で必修である。単純な機器操作だけではなく、情報モラルや著作権などの情報を扱う上で必要となる知識や、情報を発信するために必要な技術について習得を目指している。近年の情報社会におけるニーズと情報技術の活用の観点から、授業の難易度は高めであると認識しているが、到達度自己評価の結果や学生の成績状況を考慮すると、内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	はじめに「授業と質の評価」において、「（４）授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が4.1と、学科別集計の平均と比較し高く、この点は評価できる。一方で、「（３）説明は理解しやすいものであった」の平均が3.7と低く、学科別集計の平均と比較すると低いものの、昨年度の結果である3.6と比較すると向上した。本授業は情報系の科目であり、かつプログラミングの要素を含むため、学科の専門性を鑑みると難しい内容となっているが、よく理解していると考える。 次に授業評価アンケートの学習量の評価では、準備および復習を1回以上実施した割合が52.3%と学科別集計および昨年度の結果と比較し低い結果となった。この理由として、自由記述より「他の資格試験の授業に時間を費やしたため」という意見が複数寄せられていた。昨年度のアンケート結果より、受講生の負担にならないよう予習・復習の方法について検討したが、今年度も同様の意見が寄せられているため、引き続き次年度も改善を図りたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成目標への到達については、概ね達成できた結果となった。今年度の課題として、授業外学修における効率の良い課題提示が挙げられる。次年度は、学習に用いるツールを改善する等、予習・復習がしやすい環境が提供できるよう対応していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	まずは全学科の情報です。大学の5学科からの受講生（79名）がいる。学科別履修者数と授業評価回答者数（）を示す。看護16名（8）、福祉：32名（9）、栄養：7名（3）、英語：13名（3）、観光文化：10名（1）。昨年度から外部講師には授業1週間前には、少なくとも30分は事前学習が必要な教材を公開できるように依頼した。5名の外部講師は、動画、文字資料の形式で課題を出してくれた。看護学科では、4. 学習量の評価の（1）授業前の学習時間では、①○回が4名で最多であり、外部講師の準備課題を出しても回答者の半数がしていない。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最初に5学科の本試験の成績（％）を示す。看護：A75、B13、E6、J6。福祉：A50、B41、D3、J（放棄）2。栄養：A43、E14、J43。英語：A92、B8。観光文化：A30、B20、D10、E10、J30。なお、看護学科では追試合格者一名がいる。評価は授業最後に出すコメント（レポート）（40％）、レポート外の提出物がPPTでの提出物（20％）、発表（口頭、プレゼンテーション）（20％）、その他はポスターセッション発表（20％）でした。開講四年目ですが、最初の二年間はレポート100％としており、不合格者が4割出る学科、年度もありました。昨年度から対面授業となり、次第に評価項目を増やしていきっており、より単位が取りやすくなってきています。授業評価の6. 図書館利用の三項目では、看護学科学生は、延べ12名が三つのどれかを利用している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価の10項目の平均を5学科別に%でみる。看護：2.9、福祉：3.07、栄養：3.82、英語：4.74、観光文化：3.2となる。3年前期の選択科目であり、あくまで総合人間科学の科目であるところが肝要と考える。学生の質問は「北九州の技と文化」でのレポートの形式に集中する傾向があり、なぜ専門の内容に書いてはいけないのかということが問われることがある。対象ではない、DP2（思考判断）、5（技能表現）も、学生からの提出物（コメント、レポート）の評価対象とせざるを得ないところに、DP配置についてはやや苦しいところがある。しかしながら、論理的思考や表現技能を3年になるまでには鍛えられていると期待したい時期に配置されている授業であり、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当だと考える。但し、自由記述で看護三年の専門の多忙さが示されていますので、その中で総合人間学科目として、この授業を通して教養をどう身につけてもらえるかは課題です。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の5項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.92、福祉：3.12、栄養：2.68、英語：3.54、観光文化：3.42となる。最も低い項目は5学科中4学科で（3）説明は理解しやすいものであったです。5学科の平均値を示すと、看護：2.9、福祉：2.9、栄養：3.3、英語：4.4、観光文化：2である。これは全体的的には厳しい数字であるが、英語学科だけは高い。シラバスに基づいて説明をしていくしかありませんので、より丁寧な説明で臨みたいと思います。外部講師の方には、シラバスを事前に確認していただき、基本を押さえて、ゆっくり話をさせていただくように依頼をしています。今後ともこの要領で臨みますが、今回の評価結果も取り入れたいと思います。（3）説明は理解しやすいものであったについては、当授業では、総まとめ役の専任教員と、外部講師5名の両方に関わりますので、わかりやすい説明をしたいと思います。担当教員への否定的意見が5学科で意見が3件あり、看護がその一名です。その意見には、「暇な人には余裕かもしれないけど、看護3年前期の課題の量を少しでも考慮して課題の量、出し方をしてほしかった。ポスターの意味は何ですか。意味の分からない課題出すのはやめてください。何も身につきませんでした」とある。率直な意見であり、受け止めたいと思います。とにかく看護学生の多忙さは理解できました。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	5学科の学生に同じ授業をしても、学科によっては評価の差が大きく出ます。看護学科が例年厳しい授業評価となります。今年もそうでした。授業の中ではグループ（5学科学生を可能な限り混ぜています）活動をして、議論をして、グループでの議論を発表するという活動を複数回しましたが、看護の学生は中心的な役割を担う人が多いようでした。総括的評価としてはまだまだ足りないところがいっぱいあったと思います。79名を相手にするのであり、一斉指導が中心にはなりますが、オフィスアワー等を活用して、個別の指導をするなどの方策を授業の内外でとる必要があると考えます。授業は諸事情で必ず5限であるが、看護の学生については、その多忙さから授業の後が一番都合が良いということが、この二年間で分かったので、それを次年度は実行していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は、休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	例年「単位数を確保する」という受講動機が多い科目となっており、講義開始時には講義内容に対する関心が低い学生も多いと見られる。そういった学生にも、結果的に受講してよかったと感じてもらえるように毎年内容を工夫している。今年度は、「関心のある内容である」という受講動機も比較的多かったことから、当科目を受講する意義が伝わるような内容のシラバスにできていたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートの到達度自己評価項目（1）（9）（10）などにおいて、概ね高い評価となっていることから、本科目の目的は達成されているものと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	レポート課題の中で、就職や人生設計に役立つ知識が得られたとのコメントが多く見られた。従って、キャリア科目として妥当な内容となっていると考えられている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゲスト講師の講演を取り入れるなどの工夫をすることで、多くの学生が集中して受講できていたと感じている。講義時間外の自己学習については、あまり時間を割いていない学生が多いが、本科目の位置づけを鑑みたときに、専門科目の課題が優先されているのは問題ないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的にみて、当科目の目的は達成できていると感じている。来年度以降も社会情勢を踏まえながら、学生に有益な知識を提供できるよう努めたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護形態機能学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	大学に入学し最初に受講する基礎医学知識に関する必須講義であるため、①なるべく平易に、また興味を持ちやすいように日常生活や医療現場での実例と関連させて、講義を行うよう試みた。 ②遠隔と対面の両体制を交互で行う形式であったため、遠隔講義時には解剖学的な3D画像など視覚的情報を共有し、対面講義時には筆記試験の実施や双方向性の議論を盛り込み、それぞれの利点を活かせるよう工夫した。いずれにしても、ある程度一方向的に知識を講義する形は避けられないため、集中や注意が逸れないように、講義の進行に合わせて教科書と同じ図表をスライドに大きく示し、ハイライトや書き込みなどの指示も具体的に行うようにした。 ③画一的な答えだけを暗記するのではなく、体の神秘にみられる物語性という枠組みを、物語性と連結性を持って理解することを繰り返し促した。 ④内容のほとんどが新しく学ぶ知識であり、量も多いため、知識定着の促し、及び理解できていない箇所の気付きのために、毎回講義の内容について、講義終了前に小テストを行い（筆記試験）、その場で解答について復習を兼ねて解説をした。 ⑤折に触れ、医療に関するニュースや現場の実例などを紹介し、看護師という職種の果たす役割、やりがい、責任に考えを馳せる機会を設け、社会人・医療者となる自覚と学習意欲の向上を目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	前期試験の平均点は79.6点であり、例年以上に、概ね、標準的な水準に至っていた。一方、極端に点数が低い学生もあり、普段の学習への取り組み、意欲の低い学生が少なからずいることが反映された結果となった。 到達度自己評価において、(2)知識を確認、修正し、新たに得ることが、割に、あるいはかなりできた。と評価した学生は76/86人、また(6)自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた、とした学生は78/86人おり、新しい科目に意欲的に取り組み、新しい知識を得たと自覚した学生が少なくなかったことは、上記に挙げた工夫がある一定の効果を挙げた可能性も考慮しうる。 一方、講義内容の特性上、双方向性のやりとりや議論は行いにくく、コミュニケーション力や表現力への効果、及び授業の質評価において、(4)授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの、学生が参加する機会が作られていた、と評価する学生は他項目に比し、やや低く、今後意欲の維持のためにも、改善策が必要と考えられた。 毎回、講義の冒頭に小テストを課したことにより、一部の学生については復習の促しには繋がった（30分以上の復習6回以上：44/86人）と高く、復習をほとんどしない（0～1回）と答えた学生が10人以下であった。試験結果に反映されていない点について、知識の定着について、その検証もふくめ、さらなる工夫を要する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1 知識理解については、上述の通り、意欲的に取り組み、復習などを行うことで、ある程度達成されたと考えられたが、DP2思考判断については、一方的な知識の伝達ではない講義スタイルのさらなる工夫も必要と考えられた。 到達度自己評価において、(10)職業選択の参考になった、に対し「わりに～かなりそう思う」とした学生が77/87人おり、看護師・医療職になるべく道を選択した意識の促しとして、刺激となる一面もあったことが伺えた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前期試験が60点に満たなかった学生には再試を課したが、合格ラインに達したとはいえ、同問題であったにもかかわらず点数は伸びず、学習の取り組み方に難しさを抱える学生がいることも伺え、支援策の検討を要すると考えられた。 講義の説明は理解しやすいものであった（わりと～かなり）と答えた学生が80/86人おり、理解の上で、定着してoutputできるような、更なる支援が必要であることが伺えた。意欲と知識定着が一致するよう、学習方法の助言も含め、促し、支援が必要であると感じられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	知識理解について概ね目標は達成された。学生たちのうちに、基礎的な医学知識を学ぶ意欲や努力がみられたので、信頼関係を築きながら、その姿勢と得た力を維持を支援できる工夫を今後重ねていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
感染と免疫	1	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年、初回講義では、本科目のCPにおける位置付けを説明し、科目で得た知識を形態機能学・疾病学・基礎看護学・薬理学に連携するよう指導した。 ②講義で知識を習得させ、並行して実習を行った。自身の体をつかい検体を採取する技法や顕微鏡下で検体を観察する技法を習得し、学内において医療現場を想起できるよう工夫した。 ③講義内容を整理するプリント「ポイント整理」を講義進行に伴い配布し、小テストを組み合わせることで主体的学習を促し、また、学習への姿勢を確認した。「ポイント整理」は、紙面配布だけでなく、Classroomにも掲載して学生がいつでも取り組める環境を作った。 ④質問を受ける際には、「ポイント整理」を持参させ、学生の習熟度を確認した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は73点（±14.0）で、67%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は37%であった。小テストの平均点は19/30点（得点率63%）であった。DP1（知識）の平均点は64/90点（得点率71%）、DP2（思考）の平均点は8.5/10点（得点率85%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した3.7"、"新しい知識など得ることができた4.1"、"専門分野について課題を検討する力を得た4.0"、"学びを深めたいと意欲をもつことができた4.0"であった。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準の明確さ4.3、課題の明確さ4.1"、"説明の理解しやすさ4.0"、"質問を受ける機会を設けていた4.3"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の予習・復習を4～5回以上した学生が36%・45%、課題以外に学習に取り組んだ学生が82%、一方、予習・復習をしていない学生は16%・6%認めた。学生の自由意見から、「ポイントの整理をした、ノートにまとめた、小テストの勉強をした」などの意見が見られた。一方、「時間が無い、ついていくのに大変だった」と学生の意見は昨年と同様の傾向を示した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 専門基礎科目として医療に関わる基礎知識を修得し、専門科目につなぐ科目である。CP上の位置付けは妥当である。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 例年記載しているが、科目内容は、医学系の知識を主に学ぶためボリュームも多く、難しい科目である。しかし、学生の自己評価から、「説明の理解しやすさ、学びへ意欲の深まり」については、一定の評価を得ている。講義内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①今年度実施した改善策は継続し実施する。加えて、学生同士で習熟度をあげる方法はないかと考えている。講義内容の量が多く、時間的にタイトであるため、どのように改善するか課題である。 ②科目内容量が多いため、どうしても講義進行、話すスピードが早くなってしまう。講義中に質問をこちらからする、また、質問を受けるという取り組みをすることで、学生の学習状況を把握し講義を進めるよう工夫する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の自己評価・成績から知識修得については、標準レベルに達した学生が約70%と課題が残った。しかし、思考については、実習等の効果もあり、到達目標は達成された。全体の総合評価では、理想的レベルに達した学生が37%、一方、標準レベルに達していない学生が30%程度いる。専門基礎科目として多くの知識の習得が必須である。学生同士で復習をするような場を作り、互いにモチベーションを上げるような働きかけができないかと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学各論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	疾病学各論は、各分野の主要な疾病について概念、疫学、症状、検査、治療などを解説する系統講義です。疾病の知識は、全ての看護科目を学ぶうえで基礎となり、将来に臨床現場で看護業務を行うために必要不可欠です。看護師国家試験でもこの範囲から多くの問題が出題されます。 疾病学各論Ⅰは、内科疾患(循環器、呼吸器、代謝、内分泌、消化管、肝胆膵、神経、免疫)と外科・麻酔科・婦人科疾患が範囲です。外科・麻酔科・婦人科は医療現場の最前線にいる専門医に外部講師を依頼し、内科疾患は長年の臨床経験がある私が担当しました。範囲が膨大ですので、臨床現場で重要なことや看護師国家試験に出題されることを中心に、ポイントを絞って解説するように工夫しました。また、臨床現場での経験談なども紹介したり、外科の外部講師は手術の映像を見せるなど、学生さんが興味を持って取り組めるように心がけました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が100%ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」などの回答も2割あり、看護師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は79.3点（最高97点、最低44点）でした。秀：18名、優：30名であり、理想的レベル（80点以上）に到達したひとが全体の半数以上でした。内科と外科・婦人科で平均点に大きな差はありませんでした。60点未満で再試験を受験してたのは3名でした。授業後にストリームに質問があがるなど、学生さんの授業態度も良好でした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、ほとんどの項目で「まあそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数でした。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力の評価がやや低いのは毎年ですが、主に医学知識を教授する座学の講義であるのでやむおえないと思います					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「疾病学各論Ⅰ」は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。1年次で学んだ「形態機能学」や「感染と免疫」の基礎として、2年次以降の全ての看護専門科目の学びに不可欠な内容を教授します。看護師国家試験にも疾患に関する問題が多く出題されますので、早くからの勉強が必要です。疾病学の残りの分野（内科疾患の血液、腎臓、感染症、救急、小児科疾患、精神科疾患、耳鼻科・眼科・皮膚科疾患）は同時期に開講される疾病学各論Ⅱで学びます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容的妥当性に問題はないと考えます。 ただし、「疾病学各論Ⅰ」「疾病学各論Ⅱ」「薬理学」と臨床医学の重要な科目が2年次前期に集中しており、学生さんにとって勉強する量が半端なく多くて大変だったと思います。もう少し開講時期を分散できれば良いのですが。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、ほとんどの項目において「まあそうだと思う」以上の評価を得ています。学生参加の評価が低いのは毎年の課題ですが、ストリームにあがった質問に対してはできるだけ次回の授業で説明するようにしました。 授業評価アンケートの自由記述では、授業内容や形式について肯定的な意見が多かったです。次年度も基本的に今年度の方針を継続していきたいと思います。 アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは約半数でした。 なお、本科目では外科・麻酔科・婦人科の講義が外部講師のオムニバス形式になるため、試験問題を私が見直すなどして出題形式や難易度に統一性を持たせるように試みました。次年度も継続したいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	疾病学の知識は、臨床現場で看護を実践するために基盤となるもので、看護師国家試験に合格するためにも不可欠です。大多数の学生さんは標準的レベルに到達することができたと判断しました。 後期以降も病院実習などを通して疾病に関する興味を高め、自分で勉強を進めていって欲しいと思います。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	東 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬理学	2	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・ 2022年度は教室のスクリーンが小さいため講義スライドの文字を大きくするなど改善が必要であったが、2023年度の教室はスクリーンが大きかったのでスライドが非常に見やすく問題なかった。 ・ 昨年度までと同様、講義の終わりに、その日の振り返りテストを行い、知識の定着を促した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度の結果 ・ 今年度の学生の評価は毎回の講義終了時の小テストの点数の積み上げと、学期末の確認テストによるものであるが、追再試験当事者が数名いたものの、理想レベルが72%、標準レベルが24%であり、平均点は83点で到達目標は達成できたと考える。 ・ 学生アンケートから、41%（2022年：44%）の学生が予習をし、49%（2022年：51%）の学生が復習をして授業に臨んでいた。予習復習をした学生の比率は2021年度8割を超えていたので、昨年度対面授業になって減少し、今年は昨年より漸減した。自由記述のコメントによると「授業中に理解することができた」「授業で充分であった」他、「他の課題で手いっぱいであった」との記述が多数見られ、これらが要因と思われる。 ・ 時間外学習をする学生の割合は減少していたものの、当該科目に関して「わからない時は積極的に本やインターネットで調べた」など、必要に応じて主体的に学習する姿勢が定着している学生もいることが自由記述コメントから伺えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・当該科目の受講動機は「必修科目」であるためである。 ・主に「DP1-2）看護実践に必要な基本的な知識を修得している。」「DP2-1）健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。」の科目であるが、DP2-1）についての該当項目における学習到達度の自己評価が、DP1-2）より、若干低かったものの、成績や学習到達度の自己評価は悪くなく、内容妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・毎回講義時間内に小テストを行うことで、内容の理解復習に役立っているので今後も取り入れる。 ・時間は不足しているので、他の講義と重複する内容は知識の確認にとどめるなど時間配分を工夫する。 ・DP2-1の課題解決、知識の活用については、2年生前期の時点では若干自己評価が低かったが、今後他の講義や実習を体験を通して活用できることを期待する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・今年度の到達目標は達成している。 ・次年度以降、モデルコアカリキュラムに含まれる「薬物の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係」や「薬剤の職業性ばく露」についての時間配分を工夫する。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
対人関係論	1	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年前期に開講される科目のため、初回数回の授業では心理学の導入を行い、ひとの心的過程を対象とした学問の特徴について理解が深まるよう配慮した。 また、「関心のある内容である」を受講動機として選択している学生は9名（92名中）と少ないため、学生の受講動機が高まるよう心理学や社会心理学の基礎知識が日常生活や対人援助場面にどのように関連するかについても解説を行うようところがけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	平均点は84.3点（SD＝11.0）であり、受講学生間の個人差はあるものの、概ね授業目標は達成されたと考えられる。 図書館、インターネット利用が少なかったのは、本講義が発展的に学ぼうとする学生の意欲へとつながらなかったためと考えられる。定期的に授業内容だけでなく他の情報を活用しながら作成する発展的な課題を提示するなどして、学生の発展的な学習態度へとつながる工夫を行いたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年前期開講科目であり、心理学の学習自体が初めてである学生が大半を占めていると考え、基礎的な理解を問うDP1およびDP2を目標とすることは妥当であると考えられる。 また、授業内容についても、心理学の導入や対人関係、コミュニケーションの成立ちや特徴についての解説であり、DP1およびDP2に対応しており妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義では授業内容に関する質問に対する回答時間を設けたが、今後は、学生自身の自発的な学びのため、より発展的なテーマの提示や書籍等の紹介を行ってきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業目標と授業内容の関連性は妥当であり、受講学生も概ね目標を達成することが出来ており、授業内容の難易度と進行度は妥当であったと考えられる。 今後は、学生の発展的な学びのために、さらなるテーマや書籍の提示をおこなってきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	財津 倫子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康教育論	2	前期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①健康教育論は、2年生前期に履修する看護を学ぶための基礎科目であり、個人・集団を対象とした健康教育・患者教育の方法や技術を学ぶ科目である。我が国の医療体制は、病院完結型医療から地域包括医療へと大きくシフトしている。その中で看護は、健康づくり・疾病予防から、外来、入退院後の過程で、教育的な支援役割が期待されている。その役割を担うための知識が得られるように、まずは、ヘルスプロモーションや患者教育理論の活用の仕方を講義し、事例を基に指導媒体を作成し、実際にその媒体を用いて指導体験、患者体験ができる講義としている。 ②学生の受講動機では、アンケート提出者の98.1%が「必修科目である」としていた。3.8%の学生が「関心のある内容である」としていたが、昨年の8%から下回る結果であった。 ③本年度は、対面での講義であったが、昨年と同様に、個々でパンフレットを作成させた。 ④指導案作成からパンフレット作成、指導までを個々で行い、指導を受ける患者体験もできた。その自己評価を行うことで、学生自身で改善点に気付くことが出来ていた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76点（SD6.9）であり、最高点93点、最低点63点であった（詳細は、90点：3名（4%）、80点：30名（36.6%）、70点：36名（43.9%）、60点：13名（15.9%）である）。昨年度は、80点台が48%と大半を占めていたが、今年は36.6%と80点台よりも、70点台（43.9%）が上回る結果となった。そのため、平均点も昨年度より、2点下がっている。 昨年に比べ平均点は2点下がってはいるものの、目標別にみると、知識理解に関しては80%、思考判断については70%と、全て70%を超えており、概ね目標達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護を学ぶための基礎」に位置付けられている。定期試験の結果から考え、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価では、「知識理解」80%、「思考判断」は70%であった。達成度としては「達成された」であり、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、アンケートを提出した学生の9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値も4.0～4.3であり、概ね評価や質問に対する対応ができていたと考える。 今年も、昨年同様全て個人作業とした。作成したパンフレットを用いて、患者役・看護師役に別れ、全員で指導実践後、パンフレットの完成度が高かった学生2名に全体の前で指導実践をしてもらう機会を設けた。その学生2名の実践を見た後、全体で学びを発表し合い、昨年度より意見交換をする時間を多く確保した。結果、自己の振り返りとともに、他者の意見から多くの学びを得ることが出来ていた。今後も、意見交換の時間を十分確保することが重要であると考ええる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「専門教育科目」の「看護を学ぶための基礎」に位置付けられ、行動目標については、概ね達成できたと考える。 今後も、他者の意見を聞くことより多面的・多角的に学びを深めることが出来るように、意見交換できる時間を多く設けられる講義が望まれる。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学概論	1	前期	必修		93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護学概論」は1年次前期の必修科目であり、受講動機は、「必修科目」が100%である。学生は大学に入学直後であり、主体的学習となるよう、学生間の人間関係を形成し始めたばかりである。そのため感染予防対策に注意した座席としてグループワークを導入し、グループメンバーとのコミュニケーションがとれるように配慮した。 講義は教科書と講義資料を配布して授業を進めた。特に、第1回目の講義は、本科目の授業の進め方、グループワークの進め方、レポート課題などの説明等に配慮した。また、お知らせは、google classroomを利用した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準はテスト60%、レポート30%、発表10%で評価を行った。成績の平均値は83.8±7.1点であった。 ②授業評価は、履修者93名中84名の回答であり、回収率は73.1%であった。「到達度自己評価」では、98.5%の学生は自分なりに目標を達成したという肯定的な回答であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が4.1、「事象を理解する視点や考え方を得た」4.1、「課題を検討する力を得た」4.1、「的確に判断する力を得た」4.1、「学びを深めたいと意欲を持った」4.1、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.0、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.2、「職業選択の参考になった」4.0であった。全体を通して、目標は「達成された」と考える。 ③学習量の評価については、予習、復習は70%の学生が取り組んでいた。「授業で理解できていた」「用語やわからないことは自分でインターネットで調べてみた」という学生の回答はあったが、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生の回答として、「授業で理解できていたから」「時間がなかった」「他の科目の課題で追われていた」「何をしたらよいかわからなかった」などの回答があり、予習・復習についての課題提示の工夫が必要であると考ええる。 ④情報利用では、初回にシラバスを全員に配布し説明したが、72%が参考にしていたが、あらかじめ授業の計画人は50%であった。また、インターネットによる情報検索は63%の学生が利用、図書館の図書の利用は50%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見での妥当性 1年次の看護専門科目であり、看護実践の基盤となる科目に位置付けられている。学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見での内容的妥当性 看護の概念や、看護倫理、看護関連の法律や制度などの基礎的知識を理解し、到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において、肯定的な評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義は教科書を使用し、パワーポイントで作成した講義資料を配布した。看護の概念について、レポート作成とグループワークを導入し、意見交換や学習成果発表会を設定し、学びを共有した。また、自己の看護観をレポートに記述することができた。さらに、最終回は「看護における今後の課題」を考えるというテーマで、レポート作成、発表会を設定し、学びを共有した。 ②授業の質の評価では、項目別に「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」4.1、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」4.1、「説明は理解しやすいものであった」3.8、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表など学生が参加する機会」4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.2であった。次年度の授業では、わかりやすく説明することが課題である。 ③授業の欠席や遅刻、途中でクラスへの出入りをしている学生、レポート未提出の学生もいたため、授業参加に対して個人指導が必要であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習の到達目標は全体的に達成できたと考える。しかし、少数ではあるが、授業への出席やレポート作成については、個別指導が課題である。 今後も主体的な学習を取り入れ、グループ学習・発表の機会を作り、学習内容を深めることができるように工夫する。講義内容は、さらにわかりやすくなるように注意して説明を工夫することが必要である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護理論	3	前期	選択		21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護理論」は3年次に配置された選択科目である。受講動機は、「単位数を確保するため」が80%であった。 授業の実施にあたり大切にしたことは、学生の主体的な学習である。 学生は1年次の「看護学概論」の授業でナイチンゲールやヘンダーソンなどの看護理論家の看護概念について学習している。これまでに看護理論に関する図書は本学図書館に設置されているが、教科書を中心とした自己学習としている。また、学生は、2年次からの成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学などの他の科目の講義でも、さまざまな知識について学習をしている。 3年次の本科目で講義時間内にとりあげる看護理論は7～8であり、主な看護理論家の理論の概要を理解し、看護実践への活用について考えることを目標とする。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価基準は試験50%、レポート50%で評価を行い、成績の平均値は76.5±8.8点であった。 ②授業評価は、受講者21人中、10人の回収であり、回収率は47.6%であった。 「到達度自己評価」では、学生は自分なりに目標を達成したという肯定的な回答は90%であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が3.4、「事象を理解する視点や考え方を得た」3.5、「課題を検討する力を得た」3.5、「的確に判断する力を得た」3.5、「学びを深めたいと意欲を持った」3.4などであり、看護理論の概要を理解して看護実践の活用について考えるという目標は、「やや達成された」と考える。 ③学習量の評価については、毎回の講義で、その日に学習した看護理論家の理論の特徴と看護実践への活用について、レポートを提出することを課題とした。1回30分程度以上の学習については、予習は40%、復習は60%の学生が取り組んでいたが、取り組んでいない学生の回答もあった。理由として、「他の科目の課題で精一杯だった」という理由であった。 ④シラバスは70%が参考にしていた。図書館の利用者はなく、インターネットを利用した人は20%であり、主に指定の教科書で学習していた。看護理論の図書の活用については課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての妥当性 看護理論は、看護専門科目であり、看護実践の基盤となる科目で3年次に位置付けられている。選択した学生は一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 行動目標からみると、学生は主な看護理論家の理論の基礎的知識を理解し、看護実践への活用について考えることができた。学習到達度の自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において、肯定的評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であるとする。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義は、教科書とパワーポイントの講義資料を提示し、看護理論家の理論の特徴について概説した。講義後に理論の特徴と看護への活用についてレポート提出を課題とした。 ②授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」3.8、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」3.8、「説明は理解しやすいものであった」3.6、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会」については3.6であり、「質問を受付、回答する」3.74であった。前年度と同様の講義形式をとったが、授業評価は前年度よりも低かった。今後は、受講学生への説明をわかりやすくする工夫や、グループワークを導入して、意見交換や発表の機会を設定することが課題である。 ③学習量の評価では、予習・復習に取り組む学生の割合は少なく、他の科目の課題が多いという理由で、課題以外の学習に取り組めていないことがわかった。 ④欠席する学生やレポートが未提出の学生もいたため、今後は、課題の内容や提出について検討する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習の到達目標は全体的にやや達成できたと考える。 今後は、受講者の人数により、可能な範囲でグループ学習・発表の機会を作り、主体的学習がすすめられるように、課題提示と説明内容を工夫することが必要である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	梶原 江美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護過程論	2	前期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護過程論（専門科目 必修2単位）の看護の対象となる人々の生活上のニーズや健康上の問題、対象が持つ強みをアセスメントして、明らかにした看護問題を解決するための計画を立案し、実施、評価をする一連の看護のプロセスを学ぶ科目である。人間の身体と心は連関していることは容易に想像でき、かつ看護過程の考え方もシンプルである。しかし、実際に患者の看護を考えようとすると非常に難しく感じ、短絡的に考えることも多いため、まずは、授業でのグループワーク（GW）に臨むにあたって、個人での課題に取り組んでGWに臨むようにする他、質問を聞く機会を授業中に設け、情報のアセスメントを行う際に多様な捉え方があることなどを発表会を通じて理解を進めるようにした。併せて、一般的な考え方や記載例、参考図書の紹介も行い理解を促した。また、履修後の9月に行う基礎看護学実習Ⅱを見据えて、事例の提示は模擬の電子カルテを用いる、使用する記録用紙を連動する、実施は実習室での実践とし、評価を行うよう連動を意識した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は75.1点で、再試験者は3名だった。最終成績は平均76.4点±6.6での内訳は、優-26名、良-47名、可-12名だった。 到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」4.4、「自分なりの目標を達成した」「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」が4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「事象（支援、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」が4.2であり、本科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、一連の看護のプロセスである看護過程を学ぶ必修科目である。本科目で初めて看護過程を展開する学修となることから、既習の知識の整理、事例患者への展開についての事前課題が必須であり、主体的に課題に取り組みGWに臨むことが求められる。到達度自己評価や最終的な成績から科目の目的は達成されたと判断でき、内容的にも妥当であるとする。 DP別にみると、知識・理解（DP-1-2）、思考・判断（DP2-1）、態度（DP4-1、DP4-2）、技能・表現（DP5-1）に位置付けている。各DPの平均はともに標準レベル以上であったことから、内容はおおむね妥当だったと判断している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会がつけられていた」が4.5、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」が4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」が4.2、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」4.1、「説明は理解しやすいものであった」は、3.7であった。授業の進め方としては概ね妥当であったと考えているが、自由意見を真摯に受け止めるとともに、6名の教員ともGW指導内容や学生の理解度などをさらに共有し改善・工夫に努めていきたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価している。 本科目は、看護の思考過程を学ぶ基礎の部分であり、臨地実習や各領域の専門科目につながるものである。基本の特性上、GWを取り入れているが、まずは自分で考えて課題に取り組むことで、初めて難しさや面白さに気づく。その重要性の認識と理解を促すことを念頭に今後も努めていきたいと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護学概論	2	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、新カリキュラムとなり、1年生後期から2年生前期に位置付けられた必修科目である。 学生の受講動機は、以前と変わらず「必修科目である」ことが、100.0%を占めている。 臨床の看護と比べ、公衆衛生看護に対するイメージがつかない学生が多いため、第1回の授業では、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生が理解しやすい言葉で説明した。 毎時の授業においては、コメントカードの活用及び振り返りを丁寧に実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.6点であり、再試対象者は2名であった。標準的レベルに達した学生が97.6%であった。内、理想的レベルに達した者は69.9%と、約7割の学生が達成した。 目標別にみると、知識理解に関しては83.4%、思考判断に関しては78.4%、意欲・関心に関しては84.2%であった。 学生による授業評価においては、到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「職業選択の参考になった」が4.3、「自分なりの目標を達成した」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「自分なりの目標を達成した」が4.2であり、受講動機における関心の低さに比べ、講義後、公衆衛生看護に対する関心を示す成果が見られた。学生の親しみが少ない保健師活動が具体的にイメージできる導入科目としての役割を果たしていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、いずれの項目も4.0以上であり、教育課程における本科目が果たす位置づけとしての内容的妥当性は、求められる状況を近づいていると考えられる。 今後も授業後に学生の変化が見られることが学生自身が実感できる授業の展開を継続的に目指したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、必修科目であるため保健師課程のみが関係する科目と捉えられないよう、学生自身が地域における生活者として自覚し、看護者の視点を備えていけることを目指し取り組む必要がある。 今年度は、特に科目導入時及び毎時の授業時に学習する意味について説明を加え、授業を展開したことで、科目の評価として、97.6%が標準的レベルに達し、かつ7割の学生が理想的レベルに達した。加えて「理解しづらさ」を感じた学生が0%であることは、学生が達成すべき行動目標が概ね達成できたと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	旧カリでは、本科目は「看護の基本」に位置づけられていたが、新カリでは公衆衛生看護関係科目に位置づけられた、本科目の役割を果たすために、講義内容では、公衆衛生看護の実践事例を取り上げることが多く、そのことで、受講動機から講義終了時には公衆衛生看護の必要性や課程選択希望へ繋がった学生が多くみられた。一方では、一部の学生から公衆衛生看護活動への無関心なコメントが寄せられた。 今後、日本の社会における地域における看護活動は重視される状況にあるため、受講学生全員が公衆衛生看護活動への関心を深めることができる講義方法及び教材の工夫に努めたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学概論	2	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機から見ると「必修科目である」100%、「資格取得に必要なである」21.5%、「関心のある内容である」26.6%であり、必修科目である事から受講しており、多くの学生が、関心をもっていない状況であった。そのため、具体的事例や動画を用いる工夫をし、学生の関心をひき、理解しながら知識を定着できるようにした。 ②知識習得とその理解が必要となるため、定期試験の他に小テストを6回実施した。また、レポートを課し、新聞やネットニュースなどから自分で調べること、現在の子どもを取り巻く環境や社会について興味を持ち、理解を深めるようにした。 ③講義の理解状況を把握する目的と、学生自身が講義に学びや考え、疑問などを持ちながら参加できる目的として、講義終了時に毎回、「学び票」を記入するようにし、その中で質問などを受け付け、個別、もしくは次回講義中に全体に向けて回答するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価な平均値は76.4点であり、83.3%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、そのうち理想的レベル（80点以上）に達した学生は44.0%であった。再試対象者は5名。再試を実施し、4名が合格し1名は再試放棄となった。試験の平均点は45/60点（得点率75%）、小テストの平均点は22/30点（得点率73%）、レポート8/10点（得点率80%）であった。DP1の平均点は22/25点（得点率88%）、DP2の平均点は53/75点（得点率70.6%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した4.3"、"新しい知識など得ることができた4.4"、"専門分野について課題を検討する力を得た4.4"、"学びを深めたいと意欲をもつことができた4.4"であった。この結果から、意欲を持ち学ぶことはでき、知識・理解の習得ができたと考ええる。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準の明確さ4.5"、"課題の明確さ4.5"、"説明の理解しやすさ4.5"、"質問を受ける機会を設けていた4.3"であった。 ④学習量の評価をみると1回30分の復習を4～5回以上した学生が67.1%、課題以外に学習に取り組んだ学生が59.4%であった。 以上の結果より、①において小テストの得点率が高いことから、8回の講義中6回的小テストを行ったことで、ほぼ毎回の復習が必要となり、その結果小テストのための学習はおこなえていたと考えられる。しかし、試験の結果は、小テストと難易度は変わらないにも関わらず、小テストに比べ得点率が低いことから、知識の定着にいたっていないことも考えられる。学生からは、「わからないところをノートにまとめた」、「動画などを見て理解を深めた」などの意見がある一方、「復習してない」と回答している学生もあり、学習を主体的に取り組む学生と、取り組んでいない学生の学習量に差が出ていると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、看護の実践の応用のために必要な知識を養う科目として、学生の自己評価からも2年次で学ぶ内容としては妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 科目内容は、小児看護の基盤となる科目であり、必修科目、資格取得のために必要である科目と考える。学生からは「知識を確認、修正し、新たに得ることができた」「小児看護に興味をもった」などの意見があり、講義内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容も妥当であるとする。しかし、知識の定着に至っていないことも考えられるため、講義内容の見直しや、時間配分の検討をする必要があると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義内容は教科書と毎回の学生の学び票を参考に、学生が理解しやすい言葉を選んだり、言葉の説明だけではわからないところは、動画やイラストなど視覚的に理解できるように工夫した結果、学生から「理解しやすかった」などの意見や試験などの結果からも授業の進め方は概ね妥当だったと考える。 ②学生からは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.0、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、学生が参加する機会が作られていた」4.1と学生が講義に参加できるよう、昨年度に比べ質問する機会などを増やした。しかし、8回の講義の中で、学修範囲も広いため十分な時間を得ることが出来ない。感想票や質問票などを活用し、概論科目であっても学生が講義に参加している意識を維持できるよう工夫する必要がある。 ③試験については、知識の理解と定着のためには、繰り返し復習できるよう、小テストの点数配分を減らしたり、小テストのタイミングや範囲を工夫した。しかし、小テスト平均点は22/30点（得点率73%）であったが、試験は45/60点（得点率75%）であった。試験は国家試験形式や記述問題としたが得点に繋がらなかったことから、知識の定着には至っていないと考える。当科目は知識を修得する科目であり、範囲も広いことから、今後も知識を定着させるような工夫が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目を運営する中で、知識を提供することが中心となっていた。学生の理解は概ね目標達成できていた。今後は、学生の発表や発言、質問などをする時間や機会を設け、学生参加型の講義形式をとり入れていくことが課題である。また、試験方法なども検討し、学生が繰り返し復習し、知識の定着につながる様な学習形態を考えていくことも課題である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	樋口 由貴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小児看護学演習	3	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機から見ると「必修科目である」が98.6%、「資格取得に必要である」27.1%であり、資格取得のために受講しており、また、「関心のある内容である」学生は20.0%であった。小児看護学概論や小児看護方法論を通し、関心をもつ学生も少なくない状況ではあるが、子どもと接する経験が少ない学生や小児看護現場をイメージできない学生もいることから、子どもや小児病棟をイメージできるように動画や事例を用いることで、学生の興味をひくように工夫した。まず、興味関心を持ち、この目の前の子どもと家族にどう看護しようかという意欲が持てるようにした。これまでの知識を活用し、事例の患児・家族に看護介入する方法を思考するよう、援助方法の実際などについても具体的に説明した。学生が苦手とするアセスメントについても、事前課題として、講義前までに自己で調べ考えてから講義に参加すること、講義内で一例を示しながら理解できるように講義を組み立てた。また、今年度は、対面での演習が可能であったことから、アセスメントまでは個人学習、看護計画立案をグループワークとすることで、看護計画立案を通して、小児看護を理解できるよう講義を組み立てた。 ②担当教員2名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。また、学生への指導内容については、教員間で統一をはかった。 ③学生の看護技術習得を目的として、教員だけで指導するのではなく、すでに技術の習得をしている4年生にも技術演習に参加してもらうことで、質問しやすい環境をつくり、個人のスキル向上ができる指導体制をとった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は72.7点であり、標準的レベル(70点以上)に達した学生は74.1%、そのうち理想的レベル(80点以上)に達した学生は19.1%だった。再試験対象者は4名で全員が合格となった。試験の平均点は17/20点（得点率85%）、小テスト6/10点（得点率60%）、レポート34/50（得点率68%）、発表15/20点（得点率75%）であった。DP別の成績は、知識理解の平均点は10/15点（得点率67%）、思考・判断の平均点は26/35（得点率69%）、態度の平均点は36/50点（得点率72%）であった。 ②学生の到達度自己評価の平均値は4.2、"知識を確認・修正・新たに得ることができた4.3"、"専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.2"、"専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた4.3"、"コミュニケーション力や表現力を高めることができた4.2"であった。 ③授業の質評価は、"レポートなどの評価基準の明確さ4.4"、"学習の範囲や課題の明確さ4.5"、"話し合う、発表するなどの機会があった4.4"、"学生の質問を受け付け答える機会があった4.4"だった。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を3～6回以上した学生が50%、課題以外に学習に取り組んだ学生が22.8%であった。一方で、1回30分の予習・復習を0～1回とした学生が34.2%であった。 ⑤図書館利用率は65.7%、学術データベース利用率は40%、インターネットなどの利用率は85.7%だった。 以上の結果より、概ね標準的レベルに達しており、自己評価からも専門分野についての学習意欲につながっていると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 看護の実践の応用科目であり、小児看護の現場で活用できる知識・判断・態度を養うことを目的としている。関心をもって受講した学生は20.0%であったが、「学びを深めたい」とした学生の平均値は4.3であったことから、講義内容は、小児看護を実践する事に意欲が持て、科目の位置づけとしては妥当であると考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、DP別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考え。しかし、予習を3～6回以上行った学生は50%であり、1回30分の復習を0～1回とした学生が28.5%であった結果から、講義に合わせ、課題や小テストを予習・復習の機会としたが、十分に伝わっていないと考える。また、学生から「課題で精一杯」「他の科目で時間がない」などの意見もあるため、他の科目とも調整し、学生が十分な時間を用いて思考できるよう課題提出時期や課題の量を検討する必要がある。 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①各種感染症流行を予防する目的と学生個々の理解度を図るために、看護過程におけるアセスメントする部分の学習は個別学習とし、レポートを提出し、個別に指導した。また、小児看護の方向性を講義することで、概ね学生は理解することができたと考え。看護計画については、グループワークを用いることで、理解を深めていくことに繋がったように考える。しかし、行動目標の知識・理解の得点率67%、態度の得点率は72%と標準的レベルにとどまっており、理想的レベルにするためには、発表の機会を多く作る等の学生参加型の演習の工夫をし理解したことを表現することで、知識・技術の習得が行えるようにすることが必要であると考え。また、他領域の課題提出時期や課題量なども考慮し、学生が十分思考できる体制を考える必要があると考え。 ②図書館の利用は65.7%であり、学術データベースなどを用いていた。今後も、現場の看護実践に対し、より興味が持てるような講義内容の工夫も必要であると考え。 ③試験に関しては、レポートのみでなく、試験や小テストでの学生個々の理解を確認することは妥当であったと考え。今後も、看護の実践につながる思考・判断・態度を考慮した学習方法と評価方法を考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護実践の応用をするために、知識、思考・判断、態度を学ぶ目標は概ね達成できたと考え。学生に小児看護に興味を持ち学びを深めたいという意欲も高めることができたと考え。今年度より、母性看護学演習終了後に開始する科目として、母性看護学演習での事例と連動した内容としたが、特に学生の理解度などには影響はなかった。他領域との事例を連動させ、「人」そして「家族」「地域」を対象とした看護を理解できるような事例や講義内容の工夫をしていきたいと考える。 限られた人数の教員で、学生個々の知識・技術の習得を促すためには、今後も学習形態などの工夫が必要である。学生が、看護の実践に興味をもてるよう、刺激し、主体的に学習できるように促す具体的取り組みを今後も検討する必要がある。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	前期	必修		88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護師国家試験受験資格取得に必要な必修科目である。2年生前期の開講科目である。到達度自己評価項目はすべて4.0以上であり、中でも「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」4.5、「自分なりの目標を達成した」4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」4.4、「職業選択の参考になった」4.4が高かった。最新の統計的データや最新のトピックスに関連する動画など視聴覚教材を随所で用い、実際の事例等で具体的に提示することで興味・関心を促進することができたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均得点は75.0±8.6点（最低47点、最高93点）、評定S 3.5%（3名）、A 30.6%（26名）、B 49.4%（42名）、C 15.3%（13名）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	母性看護の主要な概念を中核に据え、母性看護の目的を多角的な視点で捉えられるよう、臨床事例の動画等の視聴覚教材を適宜用い、理解を深められるよう、授業を展開した。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの改善意見はなかった。学習量の評価について、66.1%が「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備」を1回も行なわなかったと回答し、57.6%が「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習」を1回も行なわなかったと回答した。その理由（自由記述）は、「授業内容で/授業中に十分に理解できた」9件、「他の科目の課題で忙しかった/時間がなかった」18件、「何をすればよいかわからなかった」3件であった。次年度は30分程度で実施できる予習用の資料配布（配信）や期末試験に向けた小テスト等、単位の実質化を図るための予習復習の課題を設定する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	次年度は学習時間の確保に向け、上記の方策を実施する。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性看護学演習	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	①本科目は、母性看護学方法論に引き続き、母性看護学実習に必要な看護過程や看護学技術の方法を習得することを意図した授業展開を行っている。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格に必要である」33.3%、「関心のある内容である」21.1%、「単位数を確保する」15.8%、「GPAをあげる」10.5%、「友人が履修している」3.5%であった。本科目は必須科目とあるとともに資格取得に必要な科目である。 ②看護過程と看護技術の演習を中心に授業を展開した。看護過程については、ウェルネス看護診断を用いた看護過程の方法を解説し、事例を用いて看護過程の展開（情報収集から全体像の作成、看護診断・看護目標・看護計画の立案）を行った。学生の理解を図るために、小グループに分け、各グループに担当教員を配置し、質問などをしやすい環境を整えた。教員は看護過程について添削を行い、個別に指導するなど工夫をした。また、グーグルフォームを使用し質問をしやすい環境を整えた。看護技術においては、母性看護における基本的な看護技術を習得できるように事前に看護技術の動画で予習できるようにした。実際の演習では少人数で各ブースを回れるように工夫した。また、技術テストを行う際に、練習時間を設けたり、いつでも技術を確認できるようにクラスルーム動画を掲載するなどして工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.5（±10.21）であり、再試験対象者は数名であった。DP別にみると、知識理解に関しては85.9%、思考判断に関しては76.7%、態度に関しては74.2%、の標準レベルの達成度であり、真面目に演習に取り組むことができており、昨年とほぼ同じ成績であり、概ね目標は達成されたと考える。 学生による授業評価の到達度自己評価においては、10項目の平均値3.6～4.1（点）、中央値はすべて4.0（点）であり、概ね肯定的な評価であった。「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は4.0（点）であり、学生自身は本科目において自分なりの目標を概ね達成できていると考える。今後も学生が、知識理解を身につけ、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、学生は意欲的に学習に取り組み目標を達成できたのではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の応用・展開」に属し、母性看護領域における対象者に必要なケアを提供する知識と判断、態度を身につけることが必要とされる。学生の学習到達度の自己評価の項目では、平均値3.6～4.1（点）であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」100%、「資格に必要である」33.3%、「関心のある内容である」21.1%、「単位数を確保する」15.8%、「GPAをあげる」10.5%、「友人が履修している」3.5%であった。ほぼ全員が講義や演習に真面目に取り組んでいた。またすべてのDPにおいて、ほぼ標準レベルに達していた。 以上から、内容は妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は「看護実践の応用・展開」に属し、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、授業内で教員サポートのもと、演習課題に取り組めるように工夫した。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値3.7～4.2（点）、中央値4.0（点）の評価であった。成績においても、標準レベルに達している状況をふまえ授業の進め方は妥当であったと考える。また、学生の個別的な意見にもあるように、看護過程においては個別対応を行ったこと、質問などをしやすい環境を整えたこと、看護技術においては動画などを用いたことも効果的であったと考える。今後も学生個々の理解度なども確認したうえで母性看護に必要な知識・思考判断・態度を習得できるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「看護実践の応用・展開」に属しており、授業評価アンケートの到達度自己評価においては、10項目の平均値3.6～4.1（点）、中央値はすべて4.0（点）であり、「自分なりの目標を達成した」という項目に置いての平均値は3.9（点）、中央値4.0（点）であり、学生自身は自分なりの目標を概ね達成できていると考える。成績においても教育目標は達成できている。今後も学生の意見を取り入れながら、総合的な力が向上できるよう授業内容を検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人看護学概論	2	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は2年次後期に開講される専門教育科目である成人看護学方法論の導入科目として位置づけている。昨年度、成人年齢が18歳となり改めて「成人」を捉え直す機会とし、学生の発達段階と重ね合わせ授業を構築した。具体的には成人看護学の対象をライフサイクルの青年期から向老期に至る過程を成長・発達・成熟の段階として概説した。社会と生活との関連、また保健政策、疾病の特徴など対象を多角的な視点で捉え、看護実践の応用に向け、関連する理論を意識し教授した。1年次の「保健統計学」での学びを想起し、発表する機会を設ける等の学生の調べ学習をもとに授業参加を促した。調べ学習はレポートとして評価した。授業内容が多岐にわたるため、学生の学修進度を確認した。学生の授業評価において「コミュニケーションや表現力を高める」という自己評価項目が昨年の「3.2」より今回「3.8」と評価は高まった。主体的学習姿勢の構築に向けて、継続的に改善を行う。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生85名が履修し、成績評価の平均点は72.8点、理想的レベル(80点以上)は18名(21.2%)で、最高点は89点であった。再試受験者2名、追試受験者1名も最終的に標準レベルに到達できた。平均点は昨年より(+0.4)上回り、理想とする到達レベルも7ポイントの上昇がみられた。DP別の評価では【DP1-2】80.8%【DP2-1】51.2%【DP3-1】96%であったことから、目標はほぼ達成はされたと考える。成人看護概論は対象理解の基本であり、内容は抽象的と捉えられがちである。学生の授業の質評価では、平均値4.2～4.5の評価を得ている。2年の前期科目として既習の知識の定着と思考・判断として活用できるよう学生参加型の教授を工夫する必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は専門教育科目であり、必修科目である。ライフサイクルの成人期にある対象理解に重点をおき、対象に応じた看護実践を展開するための導入科目として位置づけている。受講動機として「資格取得に必要である」が19.6%、「単位数を確保する」が5.9%であった。特別な学習動機は把握できないものの成績評価は平均点72.8点、理想とするレベルが21.2%あり、全体的には一定の結果を得ている。内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 本科目の行動目標として①成人期にある人々の特徴、②環境が健康に及ぼす影響、③健康に関わる保健。医療、福祉システムの概要、④成人期の健康障害の特徴、⑤成人期の健康レベルに対応した看護方法の特徴、⑥成人期に活用できる理論・モデル、を掲げ、これらを述べる事が出来るとしている。DP別の評価では【DP1-2】80.8%【DP2-1】51.2%【DP3-1】96%であったことから、目標はほぼ達成はされたとする。動機づけと実践応用に向けた思考の深まりは今後の課題とし、目標は概ね達成されており妥当とする。 ③まとめ 以上の状況から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は予習や復習を前提とした課題(調べ学習)を課し、自己学習により課題探求内容を各自がレポートするという一連の学修が学びにつながっている。授業の質評価では各項目の平均値が4.2～4.5と一定の評価を得ている。今後も学生が興味・関心を抱き、意欲の向上につながるような授業設計が必要である。また、学習量の評価では予習・復習とも「0」と答えた学生が約半数いること、課題以外の取り組みを行っていない学生が約8割いることは問題視される、また「図書の利用」「インターネットの利用」についても同様である。継続的な主体的学習への動機づけと促進に対する働きかけが必要とする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は専門教育科目の成人期看護学の導入科目として一定の成果をえることができた。また、ほぼ100%の学生が到達度自己評価で肯定的な評価をしており、教育目標はほぼ達成できたとする。後期授業及び看護学実習において知識をもとに思考・判断の深まりを強化していく必要がある。次年度も学生の協働による主体性を促すような授業設計の構築が課題である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
成人看護学演習	3	前期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①成人看護学演習は、2単位（30コマ）で既習の形態機能学、疾病学、看護過程論、成人看護学方法論などで学修した知識、根拠をもとに慢性期、急性期における看護過程および看護技術を修得し、3年次後期の実習にて実践するための科目である。 ②講義・演習を組み合わせ1回2コマで実施している。授業時間90分で15回で組み立てを行った。 ③1グループ4名、23グループを単位認定者4名と助教・助手4名がペアとなり、1ペアが5～6グループの指導を行った。 ④看護過程のグループ評価、技術の個人評価および小テストにて看護過程の理解を確認した。小テストでは、慢性期事例終了後と急性期事例終了後の2回実施し、知識の確認を行った。 ⑤反転授業を行った。講義までに授業進行に合わせた課題を個人ワークを行い、グループワークでディスカッションにて疑問の解決を行った。また、個人ファイルの提出を求め、個人の成長を促した。 ⑥技術に関しては、4年生が模擬患者を演じてリアル感を持たせるように工夫を行った。 ⑦学生の受講動機は必修科目であるが96.8%、資格取得に必要が次いで多くみられ、「関心のある内容である」は12.9%（昨年度18.9%）であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①91名が履修を行い、評価は、総合評価の平均値は71.3点（SD8.2）で昨年度76.6点（SD8.6）に比べて低くなっている。最高点92点、最低点45点であった。不可8名で、再試験にて5名は可とし、2名は放棄した。結果、58人63.7%（昨年度83.0%）の学生が標準的レベル（70点以上）に達しており、理想的レベル（80点以上）に達した学生は12人13.2%（昨年度42.5%）だった。 ②DP観点別の成績は、DP1-2（知識・理解）は、10点中6.9点（得点率69.3%）、DP2-1は、68点中46.1点（得点率67.9昨年度74.8%）、DP3-1および3-2は、10点中8.5点（得点率84.8%）、DP4-1は、7点中6.1点（得点率87.0%）、DP4-2は、5点中3.7点（得点率73.9昨年度97.7%）であった。 ③学生の回答者数が31人と少ない（回答率34%）。到達度自己評価の平均値は、4.1（4.2-4.0）で、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が最も高く、昨年度と同様の傾向であった。 ④授業の質評価の平均値は、4.2（4.3-4.1）で、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が最も高く、昨年度と同様の傾向であった。 ⑤学生の学習量評価は、1回30分以上の予習・復習をした学生が、80.6%、87.6%（昨年度90.5%）で、7～10回以上した学生が、56.6%・45.2%（昨年度77.4%・71.7%）であった。課題以外の学習に取り組んだ学生は、25.8%（昨年度37.7%）で、自由記載で「課題に取り組むので精一杯だったため」であった。 ⑥図書館等の利用では、図書館の図書、雑誌を利用した割合は、77.4%、インターネットやホームページを検索し、利用した学生は93.5%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は既習の形態機能学、疾病学、看護過程論、成人看護学方法論などで学修した知識、根拠をもとに慢性期、急性期における看護過程および技術を修得し、3年次後期の実習にて実践するための科目である。科目の位置づけとして内容は妥当であると考ええる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度、技能表現）及び学生の到達度自己評価などから、科目内容は妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上より本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学習達成度、到達度自己評価、授業の質評価の結果は良好で、後期実習に向けた学修の修得につながったと考える。 ②反転授業を実施しており、課題を個人ワークで行い、グループワークで理解を深めるようにした。 ③昨年度より定期試験ではなく、慢性期事例、および急性期事例終了後に、看護過程の理解を確認するために小テストを実施している。小テストは、グループワークでは見えにくい個人の理解度の把握に繋がった。また、個人で考え解くという思考の定着を確認することで、フォローアップを行うことに繋がった。また、再試験前に再度、ミニ講義を行い知識の定着に努めた。 ④看護過程の小テストおよびグループワーク、看護技術の総合点で評価を行っている。昨年度の反省を活かし、点数配分を看護過程の理解に重きを置いた。そのため、昨年度に比べDPの修得率に変動がみられたと考えられる。 ④コロナ禍では、時間外の技術練習時間を取りやめていたが学生の要望もあり、本年度から時間外の練習時間を設け、技術チェックを行った。主体的に練習に取り組む姿勢がみられた。 ⑤3年前期は全ての領域における看護過程が同時開催される。そのため学生の記述にあるように「課題に追われていた」という意見がきかれた。来年度は、課題の整理を行う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は上記に記載した評価点、観点別学習達成度（知識理解、意欲関心、態度）及び学生の到達度自己評価などからみて、この科目の目標は達成できたと思われる。昨年度よりも再試験者が増えたのは配点変更の影響があると考えられる。その背景には、基本的な解剖生理学、疾病学の知識、看護過程の理解が乏しいことが問題として挙げられ、今後とも小テストにより、理解が乏しい学生を導きだし、指導を行っていきたい。 技術演習では、4年生が模擬患者を担ってくれたことで、リアル感をもって技術演習を行うことができた。また、技術チェックに際して時間外に練習する機会を設けたことで主体的に練習する姿がみられた。 今後は、3年後期の成人慢性期看護学実習および成人急性期看護学実習で、いかに本講義・演習での学びを活かすことができているか、学生の修学の確認をしていきたい。また、演習課題が多いという指摘があるため、演習課題を見直し、2年後期の「成人急性期看護方法論」等で課題を分散することで、3年前期本演習での課題量を減らし、ゆとりを持って学びを深めることができるようにしていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
老年看護学概論	2	前期	必修	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の変更に伴い、老年看護方法論、老年看護学演習での構成を調整し、加齢性の心身変化をメインとし、祖父母の自宅の危険度マップのグラフィックレコーディングを方法論から移動し、エンド・オブ・ライフケア、認知症高齢者施策については、方法論に移動した。 ②老年看護学で記憶すべき加齢性の心身変化や統計資料等はほぼ前期で学修した
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①平均79.0点、中央値80点、最低54点、最高89点で、秀ゼロ人、優39人、良40人、可4人、不可1人となった。 ②小テスト2回は持ち込み可であり、課題提出2回を含む合計点が最終評価となっているが、全体を通して秀でた成績を修めた人はいなかった。 ③老年看護学概論で不合格者が少ないのは、小テストや毎時の振り返りフォームで提供している国家試験過去問により、老年看護で記憶すべきところを明らかにしていること、成績不良者には、こちらからアプローチして、勉強の仕方を教えている成果であると考え。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・祖父母の自宅のグラフィックレコーディングの制作を通して、高齢者看護の当事者性を感じることと、加齢性の心身変化を取り扱うことの難しさの両面を学修することに繋がられたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業評価では、全体に4.0-4.5の評価となっており、学生の学修はスムーズだったのかもしれないが、回答者の人数が38名にとどまり、なんとも判断しづらい。授業の毎時の振り返りフォームの回答はいつも100%で、授業評価アンケートの回答時間も確保しているのに、どうしてこうなのか不思議だと思っている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①教科書の変更により、サイズが小さく、ページ数が少なくなったことから、教科書を何度も熟読するように求めている。発展的学修を求める学生にとっては、講義資料や配布資料を活用でき、理解が難しい学生にとっては教科書をまず理解することで老年看護学の学修をスムーズに開始されたと考えた。 ②小テストを2回した割には、定期試験の成績が平凡であったが、毎時記入しているフォームには、講義内容に適した学びや気づきの記入があり、関心・態度は醸成されているものとする。 ③2年生にとって、初めてのグラフィックレコーディング制作となったが、どの学生も丁寧に準備して、取り組んでいることがわかった。内容の構成、配置、表現など一朝一夕に完成させることは困難な方法であるにもかかわらず、本来の高齢者の住まいの安全や、高齢者の生活への配慮や思いやりのこもった成果が制作され、学生自身も成長を感じ取ることに繋がったと思われる。 ④レポート作成の型式を自由とすると、グラレコで提出する学生が3～4割おり、学習効果はそれぞれに適した方法で得られると思うが、逆に文章での表現が苦手なままにならないように、文章表現についての課題を固定したほうが良いかもしれない。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
老年看護学演習	3	前期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①老年看護学の基礎については、2年生老年看護学概論、老年看護方法論で一通り既習しており、臨床看護に発展させる内容で講義を構成した。 ②「血液透析を受けている慢性腎不全患者の看護」、「放射線化学療法をうける肺がんステージ4患者の看護」のいずれかの対象で、看護過程の展開を演習した。事例は、臨地実習で実際に対応する患者に近いものとした。 ③技術の実習では、高齢者体験装具を装着した体力測定・関節可動域計測と、残尿計を用いた排泄アセスメント、ドップラー血流計を用いた下肢血流評価、義歯洗浄を実施し、アセスメント、看護実践に必要な技術を実践・考察する内容とした。 ④看護過程の展開は、学生個人が取り組むこととし、アセスメントの方向性は事前に要点を授業で示した。 ⑤高齢者の健康や保健医療に関する書籍、映像作品についてのグラフィックレコーディング制作を行い、高齢者観の醸成を図った。 ⑥老年看護が過程のそれぞれのアセスメントや看護問題で、老年看護学特有の課題に関する文献資料を3-6編要約して、紹介した。 提出された課題全てについて、それぞれの様式に対応したルーブリックのある評価表を用い、提出前の自己点検、評価としてのフィードバックに活用した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①全体の平均点77.8点、中央値79点、最低52点、最高94点で、秀6名、優31名、良35名、可15名、不可1名となった。 ②課題提出は全員遅滞なく行えていたが、内容的に講義で示した要点のみが書かれたもの、発展的に学習されたものなど個人差があった。今年度より導入したルーブリックを用いた評価により、その取組や成果を区別して評価し、フィードバックする事ができた。 ③グループワークが2回あったが、グループ学習に、グループメンバーの平等の作業量や貢献を求める学生から数件要望があった。そもそもグループで取り組む趣旨が理解されていない、社会性、コミュニケーション力、協調性などの基礎力が十分でないと感じることがあった。 ④高齢者看護の知識については、加齢性の心身変化を踏まえた情報収集やアセスメント能力が備わっていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①慢性腎不全、肺がんという疾患、血液透析、がん化学療法、がん放射線療法の治療に伴う看護問題やその対処について、広く、深く学べる教材を提示しており、臨地実習だけでなく、将来の進路や、実務においても何らかの示唆を与えるものとなっている ②老年看護学アセスメント手法を実践的に学ぶことは、高齢者看護や高齢者の健康づくりの質の向上に貢献し、高齢者の豊かな生活を指向した看護を実践できる看護師として、将来その能力を発揮すると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①老年看護学実習で、実際に担当する患者を想定した、看護過程事例、技術演習を教材とし、記録様式、個人あるいはグループワークを整理し、情報検索の方法、考察文献の読み方、活用方法に至るまでを解説し、学生は効率よく学修を深められる環境を整えることができたと考える ②学生が課題に着手する前に、当該部分の解説や、課題作成の方向性に付いて資料配布、講義をおこなっており、全体に課題提出の遅延や、未提出はなかった。 ③授業評価アンケートでは、全体的に3.9-4.1と、中庸な回答が多かった。講義の直後にアンケート回答を依頼しているが、回答者が37人と少なく、毎回回答してもらっている授業の振り返りフォームは毎回100%近い回答があるので、不思議だと思っている。質問はその都度、次の授業で回答した。 ④課題の量が全体として多く、定期テストを廃止したが、2年次の老年看護学概論、方法論に、高齢者の安全と、書籍のブックレビューについてのグラフィックレコーディングを移動させ、演習では看護過程と事例の考察を文章で記述するレポートに変更したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①老年看護学における知識や事例を通した看護過程の展開、高齢者看護技術の授業形態や内容について、これまで他の科目やカリキュラムの変更に伴い、少しずつ改変を繰り返してきたが、教科書の変更も含め、現在の内容でおおよそ完成したと考える。しかしながら、高齢者看護の課題や新しい制度や知識は日々生まれているので、世の中の変化に応じて見直していきたい。 ②学生が楽しく、興味を持って学べる内容とするため、教材、機器など、実践的なものの整備を継続したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護学演習	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、後期からの精神看護学実習に直接かわる科目である。学生が実習をイメージしやすいように事例を多く取り入れ、参加型の授業が展開できるようにした。具体的にはグループ毎の発表を多く取り入れ、発表後にディスカッションし、活発に意見交換ができるようにした。受講動機は、100%が必修科目であるためであり、後期からの実習を控え、学生はそれなりの覚悟で臨んでいると思われる。 ②精神疾患と看護の関連や、患者の全体像を総合的に理解できることを目的に精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論を用い、グループで統合失調症の事例展開を行った。また、作年度に引き続きストレングス理論を取り入れた。看護過程の展開とともに今年度はプロセスレコードの演習に力を入れ、自己洞察について考察の時間を増やした。 ③学生の柔軟な発想を引き出すためにグループワーク中は机間巡視を助教・助手2名と共に行い、精神看護の個別性について熟考させた。精神疾患の特性からどのような観察やケアが必要になるのか、精神科看護のポイントを事例に沿って解説資料を作成し、学生の理解を助けた。 ④配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.7点であり、再試対象は3名であった。86名(96.7%)が標準的レベルに達した。理想的レベル（概ね80点以上を目標）に達したものは34名（38.1）%であり、40%近い学生がこのレベルに達した。成績の内訳は、A（秀）10.1%、B（優）が28.0%、C（良）が33.7%、D（可）が24.7%であった。 精神疾患も持つ人の看護の展開、主に統合失調症の事例が中心であったため、イメージがしづらく、これまでの知識を思考判断に応用することが難しいところもあったようである。また、問題解決思考にとらわれない考え方は他の身体領域とは違うため戸惑うことも多かったようである。精神疾患の病態の理解を深めるとともに、精神疾患を持つ人の生活上の支援が想像できるように、次年度に向けて検討を重ねたい。 学習到達度の自己評価の平均は4.07であり、「かなりそうだと思う」が37.6%、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」が55.9%を占めている。授業への準備状況として、予習の時間0回が22.2(昨年16.2) %、復習の時間0回が18（前年20）%となっており、前年より学習時間がやや減少している。課題が忙しかった、課題以外の学習する時間がなかったという意見はあるが、提出率はほぼ100%であったので、授業時間以外の学習はできていたと思われる。新型コロナウイルスの影響が少なくなり、図書館の利用は67%（昨年58%）で少し増えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。本科目の単位習得は、臨地実習に参加できる要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。臨地実習を意識した授業になるため、課題はやや多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 提出物の内容や、発表に内容を省みると学生は積極的に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、グループワークで進めたことで、学生一人一人はよく学習し理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったとする。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均は4.32であり、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が84.1%、「まあまあそうだと思う」が10.8%を占めている。精神疾患の事例を取り上げて看護過程を展開している。疾患の理解が難しいため資料の工夫等を重ねているが、今年度は理解が進んだようである。さらにわかりやすい解説をしていきたい。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点は、4.4で項目の中で最も高い評価であった。 グループワーク中心の演習であり、発表の機会を多く取り入れ、全体のディスカッションができ、参加型の授業ができたことは良かった。事例の患者について地域における社会資源の活用に関する発表会をすることもできた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、2年生後期の専門知識と、3年後期からの臨地実習をつなぐ要の位置にある。精神疾患の病態および看護の基礎的知識を確認しつつ、精神科看護の専門応用へとつなげていかなくてはならない。基礎的知識の確認は、課題を課したうえで、授業に参加してもらい、グループワークでフィードバックしながら、看護の思考過程へ進んだ。グループにおける活発な意見交換や、クラス全体での発表会を通じて、思考判断、技能表現については学生の自己評価も高かった。課題の提出率もよく、自己学習が進んでいるように思えたが、グループワークの中で十分な学習ができない学生もいたと思われるが、アセスメントの資料やプロセスレコードの資料をわかりやすくすることで理解は進んだと思われる。担当教員への意見では、教員からのポジティブな声掛けで授業や課題を頑張ろうという気持ちになれた、実習が楽しみになったなど学生からの前向きな意見が聞かれた。今後も学生のモチベーションをあげながら楽しめる演習内容にしていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
在宅看護学	3	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機を見ると、全員が「必修科目である」をあげている。「関心のある内容である」が10.8%であった。近年、医療・介護一体化改革の中で医療改革が進み、在宅医療の役割がますます増えている。在宅看護についても必要性を増しているところであるので、関心を持ち積極的動機を増やすために、1～2年生のころから在宅看護が社会から期待されていることを伝えていきたいと思う。 在宅での看護というのはイメージがつきにくく、最初の動機からポジティブな学生が少ないことは例年ある事である。そのため、科目の目的・目標を共有するのではなく、まずは関心をもって取り組んでもらうため、最初の講義で、神経難病の療養者から西南女学院大学の学生へのメッセージのDVDを見てもらった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	評価は、レポート、定期テストで行った。最終的な成績は、平均点74.2点（昨年73.4点）であった。成績の内訳は、秀 5名（昨年1名）、優 26名（昨年26名）、良31名（昨年 45名）、可25名（昨年33名）、不可 1名（昨年0名）、放棄 2名（昨年1名）であった。 学生の評価でも、「授業に参加するために1回30分以上の準備をどのくらい行いましたか」および「授業を振り返るために1回30分以上の復習をどのくらい行いましたか」で、全体の71.5%（昨年72%）は1回以上の予習・復習をしている。しかし、15回の講義で、4回以上の予習・復習をした人は27%であった。 学生の主体に任せると学習の取り組みや成果に差が出るため、課題をだすことで最低学習量が確保できる。しかし、3年生の前期は演習科目が多く課題が重なっているため、なるべく強制的な学習を避けている。自主的な学習に取り組んでもらうためにどのように興味を持たせていくか、私の大きな課題である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はDP1：知識・理解、DP2：思考・判断、DP3：意欲・関心を目標にしている。対象が小児から高齢者とすべてのライフステージである。疾患も多岐にわたっていて、長期の療養をしている人、障害を残している人、ターミナルの人と幅広い。到達度の自己評価では、すべて学科平均より低くなっている。在宅看護学には決まった看護技術があるのではなく、個々の対象に応じて試行していかなくてはならず、学生にとって学習成果が見えにくかったと思う。学生が達成感を得られる工夫の必要性を感じる。 一方、学生自身も社会に関心を持ち、日本の医療の方向性や看護に求められていることにアンテナを張っていてほしい。特に、在宅看護は対象の価値観や健康観が基本となるため、看護師が押しつけたり決めたり出来ないことから、明確な答えが存在しない。答えがないものを考えることは面倒であり不確実であるが、「看護には答えがたくさんある」という本質をとらえて、不確実なことを面倒がらずに考えるように伝えていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は、対象や疾患がさまざまであることから、これまで学んだ各看護学の知識をもとに思考し、統合していく科目であり、既習の知識の定着が前提である。昨年は、「図書館の図書や雑誌を利用した」と答えてくれていた学生が58%であったが、今年は68%の学生が「利用した」と答えている。また、「インターネットを検索した」は85%の学生が「利用した」と答えている。しかし、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」では63%が「していない」と答え、自由記載では「課題で手一杯」「他の課題があった」「時間がない」という記載が多い。在宅看護学は社会の問題と深く関連しており、常に新たな課題が発生することから、現代的課題を紹介していき、身近な問題として自主的な学習に繋がられるように投げかけ続けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講者90名中、授業評価を提出してくれた学生は65名である。 在宅看護学はあらゆる年齢・あらゆる疾患・あらゆる環境を対象とすることから、明確な正解がない。むしろ答えがたくさんあり、どの答えが正しいかはその場ではわからない。しかし、明確な間違いはある。学生は明確な回答がないと不安に思ったり、多くの場合は答えがないことを考えたくないようである。いつも「どう考えたらいいのですか？」という学生の質問に、教員は「あなたはと思う？」と答えたり、「何を、どこまですればいいのですか？」という学生の質問に、教員は「あなたはどうしたいの？」と答える。そのことで、在宅看護は「答えをもらえない」と憤慨する学生が多い。 答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、考えることを繰り返し説明したい。また、シラバスを確認し、シラバスに書いている予習・復習をして、講義に臨むように動機づけしていきたい。 一方、学生に在宅ケアの興味を持ってもらう工夫をしていきたい。そして、大学生らしく主体的に自分で学習テーマをもって、図書館等を利用して学習してほしいと願う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
在宅看護学演習	3	前期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機について、「必修科目である」が100%、「資格に必要である」が43.5%、「関心のある内容である」が7.6%（昨年21.7%）であった。授業を履修するにあたってシラバスを参考にした学生は62%（昨年74%）、あらかじめ授業を受ける計画を立てた学生は38%（昨年37%）であった。昨年と比較しても同じような数字である。 在宅看護学・在宅看護学演習は2コマ続きであるため、在宅看護学で理論や考え方を学習し、演習ではその知識を使って思考していく流れを作った。また、①在宅医療や介護についての社会問題を知る ②包括看護計画 ③在宅看護技術（教育技術・提供技術）の3つの柱で15回の授業展開をしていった。授業に興味をもってもらうため、資料で各演習課題の目標を示し、画像を使ったり、教材の工夫をしていったが、学生の受け止めと学習成果は厳しいものであった。課題以外の学習に取り組んでいない理由に、「時間がなかった」「他の科目の課題で一杯であった」と言う意見が多数あり、授業計画なしに受けると言う学生の準備性のなさも伺える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は、平均点72.7点（昨年68.8点）であった。成績の内訳は、秀0名（昨年0人）、優 15名（昨年5名）、良 43名（昨年45名）、可56名（昨年56名）、不可(放棄) 1名（昨年1名）であった。 本科目は、グループワークと個人ワークを組み合わせた形式をとる。科目評価はグループワークの成果物の配点は少なく、個人の成果を主な評価対象としている。配点と基準に関しては、演習のレジメで説明してる。しかし、テスト、レポート。「提出物などの評価基準は明らかであった」で、「少しそうではないと思う」が7.5%、「まあまあそうだと思う」が25.8%あった。学生の授業評価アンケートの自由記載で、「演習の答えが欲しい」との意見があったが、在宅看護過程の共通事例について、看護展開例を配布している。それにならって、違う事例の看護展開を求めているので、その事例の展開は各自で思考することを目標に演習した。看護に正解がないこと、たくさんの方の予測をしながら看護師がアセスメントすることが必要であることの説明が行き届かなかったため、答えを求めることにつながると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、各看護学領域の知識を統合するもので、DP2：思考・判断、DP3：意欲・関心、DP4：態度、DP5：技能・表現を目標にしている。 ケアプラン・看護過程では、各自が展開できる力をつけるため、グループワークを取り入れながら、課題の提出は個人個人でするようにした。しかし、到達度自己評価では、すべての項目で平均点以下であった。他の看護学領域と違い、看護問題が見えにくく、看護計画も多職種連携のもとで包括的に立案する難しさがある。また、在宅看護学領域には決まった看護技術があるのではなく、個々の対象に応じて試行していかなくてはならない。学生が達成感を得られる返し方の工夫をしていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	在宅看護過程では、基礎看護で学んだ看護過程を基本に、在宅看護特有の情報やアセスメント、包括計画といった過程をたどる。基礎や成人看護学で学んだゴードンのパターンでない独自のパターンであることから、在宅看護過程の見本として「共通事例」を配布した。見本があることを前提に手順を説明し、授業時間内で質問に応えるべく教員でラウンドしたが、グループワークの進捗が遅く、質問がほとんどなかった。コロナ感染対策で教室を分散してグループワークをしたため、他のグループの進捗を確認したり質問すると言った協働が見られず、自己完結で終わったように感じる。 学生の授業の質評価はすべての項目低かった。自由記載では、教員を名指しで批判する内容もあった。また、質問をしている学生に教員が好意的に接していたという、努力している学生と教員両方を批判する内容もあり残念な事である。その場で質問や指摘してもらったら授業中に全体に説明することもできるので、気づいたことがあったら教えてほしい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	在宅看護の対象はあらゆる年齢、あらゆる疾患をもつ人と家族であり、看護過程は個性を大切にしたいオリジナルの看護計画を求める。学生は正解がないと不安に思い、「どう書けばいいのですか?」、「何を、どこまですればいいのですか?」と、きれいに仕上げるための書き方にこだわってしまう。学生の質問に、教員は「あなたはこの方にどうしてあげたいの?」と答えと、「在宅看護の教員は質問に答えてくれない」と憤慨する学生が多くいる。答えがないものを面倒がってしまう学生の状況を受け止めつつ、個性性を考慮したオリジナルを考えることを繰り返し説明したい。 在宅看護学は、病院内の看護とは違う文化の中で発展しているので必要とする知識や思考過程が違い、学生にとっては得意・不得意、向き・不向きが存在する。しかし、日本の医療改革の方針から、在宅看護学の知識と思考過程は、今後、急性期病院であっても必ず必要なものになる。在宅看護を好き・嫌いで学習の優劣をつけるのではなく、看護職として必要な知識・思考であることを認識して学習してほしいと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	溝部 昌子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護研究	3	前期	必修	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業時間内にグループワークできる時間を確保できるように、内容・教科書のスリム化、構成を変更した。 ②質的データの分析、量的データの分析、Googleフォームの作成について、講義内で学生が自身のPC操作をしながら、個人のスキル獲得を課題とした。 ③研究テーマの策定、研究文書の作成、質問紙（Webフォーム）の作成と調査の実施、抄録作成、結果の発表の一通りの研究プロセスを実践できるような内容とした。 ④文献クリティークを課題とし実践できるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された		やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・平均80.6点、中央値81点、最低65、最高93点で、秀2名、優50名、良39名、可2名となった。どの課題にも丁寧に取り組み、グループワークでも貢献が高かった学生が秀となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・個人で取り組む課題に、看護研究の基本的スキルの多くがあり、すべての学生が達成できたことは、今後の学修スキルとしても、看護師としての実務に対しても役立つものと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・調査研究への取り組みとスキルの習得を、講義開始の冒頭に移動して、後半で知識の整理をしたほうが、理解が深まるかもしれない ・後半は、他の科目の課題が重なるため、それぞれの科目の学修が円滑に進むように調整していく
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・講義内容をスリム化し、スキルは個々に課題を課したことで、学修成果はあったと考える。 ・看護研究への理解や将来を見据えた実践力は、後続科目で発展的に学修することが望まれる。

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域生活支援論	3	前期	必修	いいえ	95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、必修科目である。2年次に学ぶ「地域連携協働支援論」に次ぐ科目であり、地域で生活する人々の健康を支えるための知識・ケアを学ぶ科目である。そのため、これまでに学んだ各領域の概論や方法論をベースにし、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中で看護師の役割などを講義した。講義内容は様々な領域にわたるため、身近な具体例やこれまで学んできた講義内容を想起させ、関心を持ってもらうようにした。昨年と同じく、講義終了後には出席カードにより、学びや質問を確認し、次の講義の際に補足説明を行った。また、後半の講義では「障害者・高齢者・医療的ケア児」を地域で支えるネットワークを考え、発表する時間を設け、共有した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は79点であり標準的から理想的なレベルに到達していると考えられる。理想レベルに達したものは37%であった。これは昨年と比較し、上昇しているが、60点未満の学生が5名であり、学生個々の差はあった。 DP観点別にみると、知識理解では80%、思考・判断については56%、意欲関心については80%、態度では58%という結果であった。知識理解、意欲関心については概ね到達できたと考えられるが、思考判断、態度の到達度に課題が残る。 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からみると、3.6から4.1の平均値である、自分なりの目標を到達したやコミュニケーションや事象を理解する視点や考え方を得ることができた、自分が学ぼうとする専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができたの平均値が高く、この科目の学ぶべき内容について理解ができていると考えられる。しかし、表現力を高めることができたの平均値が低く、グループワークでの課題検討を行っているが、さらにグループ間でのディスカッションを進めることが必要と思われる。インターネットを利用した学生が90%を超えているが、図書館の利用が少なかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護学科科目のうち「看護の発展」に位置付けられており、専門科目のベースとなり、必修科目である。学生も一定の成績を修めており、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標については、授業評価アンケートの結果からは、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(4.1)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」(4.0)「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた。」(3.9)であり、一定の学びがあったといえ、講義内容として妥当と思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、9割以上の学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、一定の評価は得られていると考える。また学生からの意見では少数ではあるが、予習復習を行った、課題に取り組んだとの記載があった。まずは課題に取り組むことが前提であり、さらに、教科書上の予習復習は大事ではあるが、具体的に地域社会、自身の生活を振り返ることも重要であり、生活者であることを意識をするように講義時間の中で意識付けしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体的に講義内容としては学生に概ね伝わり、達成できたのではないかと考える。しかし、例年ではあるが、個別指導の必要な学生には個々に対応していく。多くの学生が図書館、インターネットなどを利用しており、課題を行うに当たっては学習を行っているとする。また、日々の学びには、自分のこと、家族のこととして捉えている学生も多く、当事者としての意識を持っていることはうかがえた。課題を発表し、共有する場を継続的に設けていく。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	中原 智美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
緩和・がん看護学	3	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、専門教育科目で看護の発展、地域包括ケアに位置づけられる科目であり、既修のさまざまな科目を基盤にしている。あらゆる発達段階、地域のさまざまな場で病気とともに生きているすべての人々を対象に、がん看護、緩和ケア、終末期看護という独自の知識・思考を新たに学ぶ科目である。 がん看護においては、入院治療のみならず、地域で生活や仕事と治療を両立しているがんサバイバーを取り巻く状況を具体的に挙げながら、地域包括ケアの視点もふまえて看護方法について解説した。また、3年次後期からの実習でも活用できるよう、臨床での事例や最新の治療、具体的な看護方法などを組み込みながら、がんとともに生きるひとの全人的な理解が深まるよう解説した。関心を高める働きかけとして、関連するトピックニュース・新聞記事・医療ドラマ、闘病されている方のブログ、図書などの紹介なども行った。昨年から行っているがんサバイバーの実際の声（大規模調査のデータ）を題材としたディスカッションも改善し、学んだ知識を具体的に結びつけて考えたり、学生間で意見を共有したりする機会を設けた。それにより、患者理解の促進や相互の学びとなっていた。また、前回の講義での学び・質問に対する応答を、今回の講義冒頭で行い、理解の促進および関心を維持できるように努めた。 緩和ケア、終末期看護については「死」は誰にでも訪れる身近なものであることを解説し、人生観や死生観が深まるように努めた。小児の緩和ケアについても専門性をふまえて具体的に解説し、実際の事例紹介やドキュメンタリー動画の視聴などを通してより具体的に理解できるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.9点、最高93点、83名（92名中、90.2％）が標準的レベルに到達している。そのうち理想的レベル（80点以上）に達した者は54名（92名中、58.7％）であった。再試験対象者は5名で、最終的には放棄した1名を除いて全員が合格した。 DP別の達成度は、【DP1】84.7％、【DP2】75.9％、【DP3】83.0％である。 到達度自己評価では、ほとんどの項目において学生は肯定的な評価であり、平均値は4.09であった。 なかでも「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は4.2点、その他の項目ではほとんど4.1点であり、本科目のねらいとしている思考・判断のために必要な"考える力"や、専門職としての姿勢について修得し、意欲的に学ぶ姿が読み取れる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性 本科目は、専門教育科目のなかの看護の発展、地域包括ケアに位置づけられる科目であり、看護を学ぶための基礎や看護実践の基本、応用をふまえ、がん患者や終末期にある患者の特徴、看護を学ぶための科目となっている。必修科目であるためか、「関心を持って選択した」という回答は9名と少なかったが、一定の成績を修めていることから内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標から見ての内容妥当性 評価点、DP別達成度、学生の到達度自己評価、および本科目の行動目標も達成していることから、内容は妥当であるとする。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	15回講義のうち、予習・復習を1度も行っていない学生がそれぞれ45.6%、36.8%（昨年度はともに30%）程度いた。その理由としては「他の科目の課題が多く時間的余裕がなかった」という意見が目立ち、例年と同様の傾向が見られた。 また、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生は32.4%（昨年度38.6%）であった。学習内容としては、わからないこと、気になったことや興味のあることを図書やインターネットで調べたり、まとめノートを作成したりなど、課題以外の学習に自主的に取り組んでいた。 図書館利用・学術データベースの利用はともに33.8%（昨年度39%、30%）、インターネットも64.7%（昨年度86%）の利用にとどまっていた。 本科目では、毎回の学び、いくつかの小レポート課題を課しており、関心のあることや文献を調べる自己学修の促進に働きかけをしたが、例年と比べて全体的に主体的な学修の姿勢は十分とは言い難く、今後も引き続き関心を高め、自主的な学修を促進できるように働きかけを行っていく。 授業の質評価では、ほとんどの平均値が4.0～4.2と概ね肯定的であった。しかし、「授業中に何らかの意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」のみ3.9であり、講義の特性上、グループワークの機会が1度しかなく、講義形式が多いことによる影響と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、専門教育科目のなかの看護の発展、地域包括ケアに位置づけられている。科目の目標は概ね良好に達成できた。思考・判断は本科目の重点DPでもあり、教授方法、評価方法ともに今後もさらなる検討を重ねていく。主体的学習を促す働きかけや、教授方法、評価方法については今後もさらなる検討を重ねていきたい。また、ディスカッションについても、患者理解の促進のために、さらに効果的に運営できるよう改善を重ねたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	金山 正子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護キャリア形成論	2	前期	必修		83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「看護キャリア形成論」は2年次に配置された必修科目である。受講動機は、「必修科目である」が100%であり、「資格取得に必要」が17.9%であった。 授業の実施にあたり大切にしたことは、学生の主体的な学習である。 入学時に、学生は、本学では卒業時に看護師国家試験受験資格を取得でき、選択コースにより、保健師国家試験受験資格や養護教諭第一種免許または高等学校(看護科)教諭免許を取得することが可能であること、また、卒業後は選抜試験により、助産別科に進学し、助産師国家試験受験資格を得ることも可能であることがわかっている。1年次前期の看護学概論では、看護師、保健師、助産師などの看護専門職の定義や役割などを学習し、さらに、大学卒業後の継続教育や認定看護師、専門看護師、認定看護管理者、特定看護師などの資格制度についても学習する。1年次後期は、「キャリア開発」の必修科目を全員が履修し、キャリア形成について知識を学習している。 そこで、2年次前期の「看護キャリア形成論」の科目では、複数の教員で担当し、学生がMSRの結果を参考にして自己分析を行い、将来どのような職につきたいかを考え、また、看護専門職の先輩の話を聞いて自己の進路や将来を考え、卒業までと卒業後の看護キャリアプラン、ライフプランについて考えられるような授業を展開した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価基準はレポート70%、発表10%、レポート外の提出物20%で評価を行った。成績の平均は77.8±8.3点であった。 ②授業評価は、受講者82人中、67人の回収であり、回収率は81.2%であった。 「到達度自己評価」では、学生は「自分なりに目標を達成した」という肯定的な回答は98.5%であった。項目別の評価平均は「知識を確認、修正、新たに得た」が4.4、「事象を理解する視点や考え方を得た」4.2、「課題を検討する力を得た」4.4、「的確に判断する力を得た」4.3、「学びを深めたいと意欲を持った」4.4、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.4、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」4.2、「職業選択の参考になった」4.4などであった。目標は、「達成された」と考える。 ③学習量の評価については、1回30分程度以上の学習については、予習は43%、復習は40%の学生が取り組んでいた。取り組んでいない学生の理由として、「他の科目の課題で精一杯だった」という理由であった。 ④シラバスは68.7%の人が参考にしたが、あらかじめ授業計画を立てた人は43.3%であった。図書館の利用者は16.4%、インターネットを利用した人は47.8%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての妥当性 看護キャリア形成論は、看護専門科目の必修科目であり、看護実践の基盤となる科目で2年次に位置付けられている。1年次に看護実践の基盤の科目や総合人間科学科目の「キャリア開発論」の科目を履修していることから、2年次の履修として、内容的に妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 行動目標からみると、学生は、自己の強みと課題を明らかにし、問題解決に向けて方策を考えたり、看護専門職として自らの将来像をイメージし具体的にレポートに記述することができた。 学習到達度の自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正、新たに得る」「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得る」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」などの項目において、肯定的評価であった。また、学生も一定の成績を修めていることから、内容的に妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①講義の進め方は、講義概要の説明後に、MSR(就職課が実施)を受け、その結果に基づいて自己分析を行い、グループワークで意見交換を行った。その後、看護専門職の先輩の話を聞き、自分の将来像を考える機会を設定した。また、看護職としてのキャリアプランやライフプランの作成を課題とした。また、日本看護協会が提唱しているワークライフバランスや働き方改革について調べるレポートの課題を出した。その後グループでの意見交換、全体での発表会を行った。全体的に目標は達成した。 ②授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物の評価基準は明らか」4.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らか」4.4、「説明は理解しやすいものであった」4.3、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会」については4.5であり、「質問を受付、回答する」4.3であった。 ③学習量の評価では、予習・復習に取り組む学生の割合は少なく、他の科目の課題が多いという理由で、課題以外の学習に取り組めていないことがわかった。 ④欠席する学生やレポートの提出期限に遅れた学生もいたため、今後は、課題の内容や提出について検討する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習の到達目標は全体的に達成できたと考ええる。 今後は、看護専門職のキャリア形成に関する話を聞く機会について職種を増やし、動画なども導入して、グループ学習・発表の機会を作り、主体的学習がすすめられるように工夫することが必要である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	杉浦 絹子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ウィメンズヘルス	3	前期	選択		49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護学科3、4年生の選択科目である。受講動機は「単位数を確保する」が83%を占め、「関心のある内容である」は33%であったこともあり、授業準備および復習をしなかった学生が最も多かった。その理由をみると「他の専門科目の課題で手一杯であった」「時間がない」「他の科目の勉強があるから」等が9件（13件中）あり、単位数を確保するという目的と相応する理由であった。 その一方で、「わからないことばや内容、疑問を自分で調べた」「もっと知りたいと思い、自分で調べた」「学びを深めるために文献を読んだ」という記述は5件記述されていた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートの平均得点は77.3±11.6点（最低60点、最高98点）、評価はS31.0%(13名)、A16.7%（7名）、B40.5%(17名)、C12名であった。レポート提出期限が授業最終日の1週間後としていたため、授業アンケートの自由記述にはレポート作成のための学習時間が反映されていなかったものと思われる。レポートの記述内容から鑑みて、実際にはレポート作成のために図書館、インターネットの利用が活発にされていたと捉えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとwomen-centered careの概念を中心に据え、女性の健康支援に関する最新のトピックスを選び、1授業1テーマについて複数の教員がオムニバス方式で担当した。学生自身の人生設計や健康管理にも関わる内容も多く扱ったため、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の評価点が相対的に高かった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの改善に向けた意見はなかった。本年度同様、女性の健康支援に関する最新トピックスをテーマにし、学生間の意見交換の時間を設ける。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	次年度は、毎回の授業において、ミニ討論の機会を設ける、ミニツッペーパーを課す等、授業に集中して臨ませる仕組みを設定する。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護マネジメント論	4	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生は看護総合実習で「看護管理」実習を行う。看護総合実習では学生が実習企画から主体的に取り組む必要があり、そのため看護管理の理解を深めておく必要がある。しかし今迄の学修においては、「患者と看護師」という視点で思考してきた学生にとって、「組織における質の高い看護実践」を思考することは至難の業と言える。このため看護管理実習に臨む学生には本科目の履修を進めた。それは受講動機の「教員に勧められた（50%）」にも表れている。だがそれと同時に「関心のある内容である」も50%認めており、学生の主体性も感じられる結果であり、これは看護総合実習を自主的に選択した影響があると考ええる。 ②授業は、2年次の看護マネジメント総論の復習を加えながら、そこからより発展させ「看護管理の実際」を意識して授業を構成した。また実際の実習部門・部署を例に授業を展開しイメージ化が図れるよう配慮した。さらに組織が質の高い看護を実践するための枠組みや連携・協働も加味した構成とした。 ③今迄は抽象的であった「質の高い看護」を、既習の知識とマンダラチャートを活用して具体化させた。それを軸に看護管理プロセスと資源活用の理解に務めた。 ④授業日程に関しては、全学生が5～6月にかけて各論実習がまだあるため、実習や就職活動等を考慮し全学生が参加できるよう調整した。 ⑤国家試験出題基準に相当する基礎的知識の修得に関しては看護マネジメント総論で教授している。このため今年度は知識修得に関しては授業内でミニテスト（30%）を実施し、知識を活用した思考力の向上に重点をおき、レポートの配点を50%とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①知識理解における自己評価は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8点と高値だったものの、小テスト（30点）の平均値は23±3.5点で、約76%の達成度であった。このため理想的レベル（80%以上）には至っていないと判断し「やや達成」とした。 ②思考判断においては、レポートを中心とした提出物（60点）で判断し、47±3.4点で約78%の達成状況であり、ほぼ理想的レベルに近いと判断した。また達成度自己評価においても、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」ともに4.8点と高い達成度であったことから「達成された」と判断できると考える。 ③意欲関心、態度に関しては、授業内のプレゼンテーション（10点）は平均7点であったものの、遅刻や無断欠席はなく、提出物はすべて期限内に指定されたレイアウトに整え提出できている。また「学びを深めたいという意欲をもつことができた」も4.5点と高値であり、態度・姿勢は「達成された」と判断できると思われる。 ④最終総合成績の平均値は78±6.4点（最高86点，最低70点）であったが、「的確に判断する力を得ることができた（4.0点）」「表現力やコミュニケーション力を高めることができた（3.5点）」に関しては課題が残る。看護マネジメントにとって判断力・コミュニケーション力は必要なスキルであるため、これは次年度の課題と捉え検討する。 以上の状況判断から全体を通しては、「やや達成された」の評価に至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、各論実習で患者・看護師間という2者間の看護を学んだ後に、組織という広い視野で看護を見直し、この学びを活用して看護総合演習・実習を計画し実践していくという点においては、4年生前期開催という時期的妥当性はあると考える。 ②本科目は看護実践の発展に部類する選択科目である。このため基礎的知識においては、2年次の看護マネジメント総論での既習の知識を活用し、看護師国家試験の出題基準にも配慮した授業内容にしている。さらに学生が、看護総合演習・実習において本科目の知識と思考を利活用できるよう、「質の高い看護とは何か」を具体化しながら、これを実現するためのマネジメントプロセスや社会資源の利活用、組織化の重要性、連携・協働等のマネジメントにとって必須となる思考を深めることができるような構成としている。前述した知識修得、思考判断、最終総合成績（78±6.4点）において、標準偏差は3～6点とそれほど大きな差はないことから対象学生に即した構成と考えられ、内容的妥当性もあると考える。しかし、「的確に判断する力」「表現力やコミュニケーション力を高める」という課題に関しては、今後検討を重ね、授業内容の質向上に務める必要はある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、（1）～（5）項目の全てにおいて、平均値は4.5～4.8と高い。レポートに関しては事前に評価基準を提示して取り組みを開始させている。また授業資料の配布においては、単なるパワーポイント資料ではなく、グループワーク・個人ワーク、調べ学習等を鑑みた資料とし工夫している。授業の質評価においても、「説明が理解しやすい（4.5点）」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた（4.8点）」の評価は高いことから、学生の満足度は高かったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終総合評価の平均値は78±6.4点で、理想域には達していないと考える。しかしこの学びをもとに、学生は看護総合演習を通して実習企画をはじめとする準備を期限内に行い、臨床指導者を前に実習プレゼンテーションと質疑応答を連携・協働しながら行うことができている。またマンダラチャートを活用して、「質の高い医療・看護」具体的に思考し、実際の実習においては臨床指導者と「質の高い看護」と、それを実現するための方策の意見交換を行うこともできている。本科目は看護実践の発展に属し、既習の知識を活用して、どれほど発展させることができるかも求められていると考える。その意味では学生は学びを発展させることができていると思われ、それが到達度自己評価にも現れていると考える。75%の学生が図書館や情報を活用できていることから、授業は相対的に学生にとって、みのりあるものであったと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健医療福祉行政と政策	3	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、3年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目となっている。受講動機には「資格取得に必要である」が50.0%、「単位数を確保する」が45.8%、「関心のある内容である」が12.5%となっている。受講生には保健師課程選択のための資格取得と主目的となっており、科目への関心が薄いことがわかる。 ②科目内容は、既習した保健医療福祉の知識を基盤に、行政の施策及び政策の策定まで学習する内容となっているため、現存する日本における制度を具体的な事例を通して、思考する構成としているため、課題及び個々の学生とのやり取りにより主体的学習をすため、ワークシートを活用した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.1点、再試対象者は0名であった。標準的レベルに達したものが100.0%、理想的レベルに達したものの82.9%であった。 目標別にみると、知識理解は79.2%、思考判断は87.3%、関心意欲は95.1%であった。 到達度自己評価では、10項目中9項目が4.0以上であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の課題を検討する力を得ることができた」が4.3であった。 自由記述欄には、教員との課題のやり取りについての一定の成果がうかがえるコメントや具体的事象による授業展開に行政施策の理解が深まった等のコメントが書かれていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護関係科目」の選択科目である。3年生前期となっているため、保健師課程を選択している学生と、単位取得のためという動機の学生がいる。そのため、いずれの学生も科目の内容を学習する中で、学習意欲をいかに引き出すか授業方法の検討を行った。結果、最終的な成績評価からは、82.9%が理想的レベルに達していることから内容的には妥当であるとする。 ②DP行動目標からみての内容的妥当性 知識理解、思考判断及び意欲関心に位置付けられた科目である。知識理解は79.2%、思考判断は87.3%、関心意欲は95.1%の学生が達成していることから概ね内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が4.5、「説明は理解しやすいものであった」が4.4であり、課題レポートの毎時の個別のやりとりについて、学生の満足度が高いことがわかる。 この結果から、意図した主体的学習を促すための教育方法については、一定の成果を上げたと言評価できる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 授業の工夫により、学生との双方向コミュニケーションは、一定の成果を上げたと思う。今後もこれらの状況を踏まえ、更なる授業方法の工夫を検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護活動演習	4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「公衆衛生看護学実習」の実習施設地域を対象に、授業では地域診断、家庭訪問、健康教育の技術を習得する演習科目である。 地域診断演習では、政府統計e-statを主なデータベースとして、実習地域の人口統計・健康指標データ等を収集し、各実習施設の情報収集・アセスメントを行えるよう準備した。家庭訪問事例では、3年次まで既習知識を想起して、事例検討ができるよう事例を準備した。健康教育では、実習施設の指導者と話し合い、健康教育の対象、テーマ、人数等、学生の準備状況をふまえて適切な教材を準備した。 授業の実施にあたり大切にしていることは、学生が保健師として実習地域への関心を高め、本科目後に開始される公衆衛生看護学実習に積極的に向かう態度を醸成することである。そのため、学生なりに話し合い考えた意見を肯定し、さらに視点をひろげられるよう学生間の意見交換や教員からの助言を行うように務めた。 自由記載では、「わからないところはしっかりと教えてくれ、親身に向き合ってくださいだったので助かった。」「たくさん助けていただきありがとうございます。」「等」等の回答が見られた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講動機をみると、「資格取得に必要である」93.8%、次いで「必修科目である」43.8%で、毎年度ほぼ同割合を推移している。「関心のある内容である」25.0%であった。 最終的な成績の平均値は83点、再試対象は0名であった。 「学習到達度の評価」では、『自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた』4.1、『知識を確認、修正したり、新たに得ることができた』4.2、『事象を理解する視点や考え方を得ることができた』4.1、『職業倫理や行動規範について学ぶことができた』4.3、『自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと思った』4.1、『自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた』4.1、『コミュニケーション力や表現力を身に付けることができた』4.2、『自分が学ぼうとしている専門分野についての確に判断する力を得ることができた』4.1、『職業選択の参考になった』4.2。 「学習量の評価」は、ほとんどの学生が毎回30分以上の準備を行っていた。 「図書館、インターネット利用」は、全員がインターネット、学術雑誌、図書雑誌のいずれかの利用を行っていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「公衆衛生看護領域」に含まれる保健師課程必修科目である。3年生前期の「地区活動論」で修得した知識に基づき、実習地域を対象として、地域診断を行う演習科目である。開講時期は実習施設が確定した4年生前期であり、履修者は保健師課程学生のための受講である。「学習到達度の評価」では、『自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた』4.1、『知識を確認、修正したり、新たに得ることができた』4.2、『事象を理解する視点や考え方を得ることができた』4.1、『自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと思った』4.1、『自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた』4.1、『コミュニケーション力や表現力を身に付けることができた』4.2、『自分が学ぼうとしている専門分野についての確に判断する力を得ることができた』4.1であった。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価では思考判断に関する達成度は前年度とほぼ変わらなかった。 以上より、DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけからみた内容的な妥当性に問題はない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」では、『テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった』4.3、『期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった』4.4、『説明は理解しやすいものであった』4.2、『説明は理解しやすいものであった』4.1、『授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた』4.4、『口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた』4.4、であった。自由記載の意見は『教科書でわからないことを調べたりインターネットで調べた』『自身で関心のある分野を調べ学修する』『分からない言葉を自分なりに具体的に調べた』と主体的な学修を行う学生もみられた。 毎年度、自己学習、グループ学習課題に関する学習量はかなりの時間を要しているため、毎回、次の授業までの課題を学生と話し合い、学生が主体的に決定し計画的に進めるように心掛けた。自由記載欄には、担当教員間でテスト前対策について対応に差があったとの意見が記されていた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	客観評価における学習到達度は、ほぼ全員が到達した。理想レベルの到達状況は前年度と同様であった。 学生の到達度自己評価及び授業の質評価の平均はいずれも前年度とほぼ同様であった。自由記載欄には、担当教員間でテスト前対策について対応に差があったとの意見が記されていた。今後は、そうした不公平感が生じないように検討して対応する。 授業以外の課題学習については、図書館の図書、雑誌、学術データベース、インターネットなどが活用されていたことや、授業の質評価について「課題の評価基準が明確である」「期間内に行う範囲や課題の提示は明らかである」では得点が高かったことから、自己学習課題の方法を丁寧に提示することによって、学生は自己学習を進めることができたと評価できる。 今後は、学生が自分の意見をまとめ話し合い、発表する機会を時間を短時間に区切って取り入れることによって、コミュニケーション力や表現力の到達度評価を高めていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学	2	前期	選択	はい	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	世相を見ていると優劣や勝ち負けにこだわり、上ばかり見て競争に勝つことが価値であるかのように見える。まさに現代社会は「脅迫的なストレス社会」であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度に引き続き、全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「人生に関する回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく雑談や人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人が存在する。注意の仕方に工夫をくわえてきたが、睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	長崎 恵美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護技術論演習	1	前期	必修	いいえ	93

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年次、入学後初めての看護技術を学ぶ必修科目である。今年度の受講動機は、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」15.3%、「関心のある内容である」7.1%であった。 授業の実施にあたり、看護に興味をもち、看護技術の楽しさにつなげること、学習態度や事前・事後学習など主体的に学ぶ姿勢を養う力を定着させることを大切にしている。そのため、事前・事後課題を必須として講義・演習に参加するようにした。1年次前期にある早期看護実習の準備性として、環境調整が大きな柱となるため、本科目ではベッドメイキングを実技試験として取り入れている。技術を確実に習得することを目指しているため、1か月前には実技試験の詳細を提示したうえで、十分な自己練習の機会を提供し、教員の助言や動画作成・配信など学生の取り組みをサポートした。 知識習得確認のために講義終了時に小テストを実施した。ポートフォリオを作成し、初回授業で目標設定し、終了時の達成評価で振り返りを行い、具体化した。毎回、学びや疑問を記載してもらい、次回に補足した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価基準は、定期試験50%、実技試験20%、レポート20%、講義終了時の小テスト10%、態度・身だしなみなどを減点対象として総合的に評価した。最終成績の平均は84点で、秀16名、優58名、良10名、可3名、不可2名であったが、再試験実施はなかった。 ②授業評価は、受講学生93名中、85名の回答があり、回収率は91%であった。 到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」という肯定的な意見が約96.5%であった。項目別の評価平均では、「知識の確認や修正、新たに得た」4.3、「事象を理解する視点や考えを得た」4.0、「課題を検討する力を得た」4.3、「的確に判断する力を得た」4.3、「学びを深めたい意欲をもった」4.4、「必要となる技術を身につけた」4.4、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」4.3、「職業倫理や行動規範を学ぶことができた」4.2、「職業選択の参考になった」4.2と自己評価は概ね高く、目標は達成されたと考える。 ③学習量の評価としては、1回30分以上の予習を70%、復習を67%の学生が複数回取り組んでいた。取り組んでいない理由としては、「他の課題に追われていた」という意見が多かった。 ④シラバスの記載を参考にした学生は80%と多かったが、あらかじめ授業計画を立てた学生は64%であった。図書館利用は12%、インターネット利用は36%と低いため、活用できるような課題の提供が必要と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、看護専門科目の必修科目であり、看護実践の基盤となる科目で1年次前期に位置付けられている。人を生活者として捉え、人の尊重を基本とし、看護実践の基本となる感染予防・環境調整・コミュニケーション・ボディメカニクスなどの項目について学修するため、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 行動目標からみると、看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点を持つ必要性を理解したり、スタンダードプリコーションの考え方、ボディメカニクスを意識した行動については、講義や演習を通して実践できた。援助に伴う倫理的課題についても、演習での患者役を通して考えることができた。 チーム医療の基本となるルールの順守や連絡・報告についても行動できるようになった。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①本科目は演習科目であるため、各単元の演習時には必ずシェアタイムを序盤に設け、技術やコミュニケーションなどでの疑問点や困難に感じている点を学生間で話し合い、意見交換することを定着させた。また、教員が補足説明を行って解決に導くことで、よりよい技術の獲得へつなげ、看護技術の達成感ややりがいへと結びつくように進めた。また、演習には必ず実施役・患者役・観察役の役割をもつように設定し、尊重の意識を高めて倫理的配慮につなげたり、他者評価を受けることで、自己では見えない部分が明らかにする振り返りとした。講義においても、ポートフォリオを毎回記載することで、学びを具体化したり、疑問等については次の回でフィードバックをすることで学生の理解を深めた。 ②授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物の評価基準が明らか」4.4、「期間内に行う学習の範囲や課題が明らか」4.4、「説明は理解しやすい」4.3、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が設けられていた」4.3、「学生の質問を受け付け、答える機会がある」4.4と概ね高い評価であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	看護専門科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識や技術の形成については概ね達成できた。 今後は、自己学習において、より主体的に行えるように課題の内容や時期の検討が必要と考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
診療関連技術論演習	2	前期	必修	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であり、基礎看護学領域において看護師国家試験出題数が最も多い科目でもある。また臨床現場においては看護師による医療事故事例が最も多い「診療の補助」業務に値する科目のため、国家試験や医療安全を加味した授業構成としている。さらに今年度からは単位数が2単位に増加したこともあり、学生が主体的に興味を持ちながら理解を深めることができ、さらに診療関連技術は自分一人だけで完結する技術ではなくチームメンバーと協力・連携しながら実践していく技術であることも鑑みチームを意識した授業形式に改善した。 ②実技試験は学生が過緊張となり本来の力を発揮できず学生の自信喪失につながる傾向もあったため、今年度からは実技試験方式は取りやめた。そのかわりに、アクティブラーニングを活用した知識・技術の質向上を目指し、学生主体の演習となるようジグソー法を導入した。この方法は各学生が1つの看護技術のリーダーとなり、演習では習得した知識・技術を活用してメンバー支援を行う。この学生主体の演習活動を通して、チーム全員が知識・技術の習得に加え、思考力、表現力、責任感等の向上を図ることも加味している。 ③学生のグループワークの負担軽減を考慮し、同じ時期に開講されている看護過程論と連携しグループメンバーは同じに調整した。 ④自己の課題技術の自主練習においては、学生の授業計画を分析しスケジュールを作成、全学生が平等に自主練習が行えるよう時間配分の調整を図った。 ⑤すべての自主練習において科目担当者が終始支援し、知識・技術の習得支援を行った
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①知識理解における自己評価は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（4.7点）」「専門分野の必要となる技術を身につけることができた（4.7点）」「学びを深めたいという意欲をもつことができた（4.6点）」と高値であり、昨年度の自己評価を上回っている。しかし定期試験（100点）の平均値は68.4点で、理想的レベル（80%以上）には至っていないと判断し「やや達成」とした。 ②思考判断においては、ポートフォリオやレポート等の提出物等を中心に判断し、科目の最終テーマである「安全な診療技術の提供」について思考できていた。自己評価においては、「さまざまな課題を検討する力を得る（4.6点）」、「的確に判断する力を得る（4.7点）」は高値である。実際の自主演習や演習場面においても、演習リーダーとしてどのようにメンバーを導くべきかを考え、自分なりに資料等をまとめている学生がほとんどであった。以上から「達成された」と判断できると考える。 ③態度に関しては、遅刻や無断欠席はなく、提出物はすべて期限内に指定されたレイアウトに整え提出できている。希望した自主練習日は無断欠席することなく全員が参加し、片付け・清掃も責任をもって行っている。さらにリーダーでは自主的に自身の技術評価を教員に求めるなどの積極性も認め、メンバーとして参加した演習では、リーダーがリーダーシップを図れるよう協力している姿が確認されている。自己評価の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた（4.6点）」「職業選択の参考になった（4.6点）」も高値であることから「達成された」と判断できる。 ④最終総合成績の平均値は74.86±13.45点（最高95点、最低50点）で、60%の評価割合をもつ知識理解に課題を認めたため、全体を通しては「やや達成された」の評価に至った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、基礎的看護技術履修の最終段階に位置付けられた必修科目である。このため1年次に学修した看護技術論演習・生活援助技術論演習の教員主体の授業方式から進化させることが学生に成長を実感させモチベーションの向上にもつながると考え、ジグソー法の導入に至り、教員主体から学生主体のアクティブラーニング法を意識して構成した。社会人基礎力や看護師国家試験出題基準を参考に、「教員主体の演習で行う看護技術」「学生主体で演習する看護技術」「シミュレーションと動画で学ぶ看護技術」に区分整理し、授業スケジュールを作成した。授業の進め方においては、まずは講義を行い、学生の予習・復習と演習リーダーとしての自主練習時間を確保したのち、学生主体の演習活動、振り返りへとつなげた。学生の自由意見からは「看護技術について学び、看護師のすごさを感じた」「技術と思考力をあげることができた」「楽しく授業に参加できた」「リーダーになることでより成長できた」などの自己効力の高まりが予測される言葉も認めている。また具体的に取り組んだ学習においても、「予習・復習」「動画視聴」「形態機能学の活用」「自主練習」「演習リーダーとしての準備、調べ学習」など主体性がうかがえる記述も多く、既習の知識を活用する学習法も習得しつつあるように感じる。以上より、最終総合成績の平均値も74.86±13.45点であることから、理想的レベルとは言えないものの、知識技術の習得、思考判断、態度等の総合的判断から、内容的妥当性はあると考える。今後は、さらに知識習得が向上できるよう、ジグソー法を進化させていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価は、（1）～（5）項目の全てにおいて、平均値は4.5～4.6と高い結果であった。 ②定期試験に関しては、各学生によって自己課題技術が異なっていたため、学生の課題となった技術に関する試験は同じ点数配分となるように配慮し、学生にもその旨を伝えた。またレポートに関しては、授業開始時にテーマを提示し自主練習や演習を通して思考できるように配慮した上で、事前に評価基準も提示した。 ③自主練習や演習に関しても、スケジュールを早期に配布することで学生は期限等を把握しやすく時間管理を行いやすかったと考える。 ④講義に関しては動画や写真を活用し理解しやすいように工夫した。学生の自由意見にも「わかりやすかった」という複数の意見が記載されている。 ⑤演習では、チームディスカッションや振り返りの時間を取り入れた。またリフレクションが行えるよう最終授業日はまとめの時間を設け、学生が参加できる時間を大切にした。 ⑥科目担当教員は、すべての自主練習に参加し、学生とコミュニケーションを図りながら、その都度質問への回答や助言を実施し、学生の学びの質を高める努力を行った。 以上の実践と学生の肯定的な意見から、科目単位数が2単位に増え、学生にとっては高いハードルとなったと思われる本科目であったが、最終成績は74.86±13.45点で昨年度とほとんど差はなく、また学生の満足度も相対的に高いものにすることができたと考える。今後は他の教員との情報共有をさらに行之、学生の理解と満足度がさらに高まるように調整を図りたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	最終総合評価の平均値は74.86±13.45点で、理想的レベルには達していないと考える。しかしこの学びをもとに、学生は楽しく学習を行うことができ、看護師としての未来像を見出しながら、能動的に学習を進めることができていたことが自由意見からもうかがえる。また知識・技術の習得や、課題検討や判断力に関する自己評価が高いだけでなく、チームやリーダー・メンバーを意識して行動することの重要性も理解し、成長実感がうかがえる意見が複数あった。高等教育として、専門職者の育成としての大学教育として、また看護専門職として卒業後も自己学習・組織学習を求められることから、このような学びを通して自身の成長を実感できることは重要と考える。さらに単位数が2単位に増え、学ぶべき内容が増えたにもかかわらず、最終成績は昨年度とほとんどかわらなかったという点では、授業構成と運営という点ではある程度達成はできたと考える。 今後の課題としては、まずは、さらに学生の知識習得の向上が図れるように教授法の改善に取り組む。次に演習リーダーとしての活動評価に関しては、今回は知識・技術習得状況、演習への参加状況等から複合的に観察法を中心とした評価方法を取り入れたが、この評価方法に関しては、さらに改善の余地がある。学生にも支援教員にも、よりわかりやすい評価基準に改善するため、今後も検討を重ねる。最後に質の高い診療関連技術の基盤は「清潔と不潔を理解した技術提供」と考えている。今年度はこの「清潔・不潔の理解」に関して、知識のミニテストと滅菌手袋の着脱技術チェックを導入したが、この内容もさらに改善・工夫の余地があるため検討を行う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教職の歴史的変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、2度の小テスト、長短の数度のレポート提出の合計点で行った。前半の教師の服務についてなどの理解は、筆記試験で確認する必要があり、今年度より小テストを実施し、理解の定着を図った。 ②90点以上1名、80点以上90点未満4名、70点以上80点未満5名、60点以上70点未満3名、平均76.2であった。成績としては、がんばっているように思われる。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①毎回のことながら、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、昨年同様に前半と後半で学生の態度に違いがあった。やはりグループワークを取り入れ具体例を考察した後半が反応がよかった。 ②次年度からは、自らの課題と感ずることが出来るような授業構成と方法を改善したい。 ③次年度では、学生の関心が高いスクールソーシャルワーカーを外部講師として招きたいと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○2022年度 全体平均77.8、看護学科平均87.0、秀60.0%、優40.0%、良0.0%、可0.0%、不可0.03%、標準偏差6.00 ○2023年度 全体平均81.5、看護学科平均84.2、秀33.3%、優58.3%、良0.0%、可8.3%、不可0.0%、標準偏差9.32 ○全体平均より3点程度高く、秀と優が9割を占める良い結果であった。昨年度と比較すると、秀の割合が半減し、可が1名いた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○実際の授業記録動画の視聴を課題とし、その上で授業中に動画を再生・解説するなど、実際の授業の雰囲気や教師の具体的指導方法の習得に務めた。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができた授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は十分満足できるレベルにある。 ○次年度は各自が自分自身の伝えたい道德テーマを指導案の形で表現できるよう、内容や方法を改善したい。 ○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。